



田中弘允 学長

鹿児島大学は、南九州にあってわが国の大規模な総合大学の一つとして、創立以来50余年にわたりその使命を十分に果たして参りました。本学は、旧制第七高等学校、鹿児島師範学校、鹿児島青年師範学校、鹿児島農林専門学校及び鹿児島水産専門学校を母体として、文理・教育・農・水産の4学部をもって昭和24年に創設されました。その後、医学部と工学部の増設、文理学部改組による法文学部、理学部、教養部の新設、歯学部と医療技術短期大学部の設置が行われています。そして平成9年4月1日より教養部の廃止転換と8学部の改組・充実が行われ4（6）年一貫教育となりました。21世紀を目前にして大きな飛躍を目指して新しく生まれ変わったということが出来ます。

本学は、法文・教育・理・医・歯・工・農・水産の8学部と大学院の8研究科からなっており、また附属図書館、地域共同研究センター、総合情報処理センター、遺伝子実験施設、多島圏研究センター、アイソトープ総合センター、留学生センターなどの全学附属施設が設置されています。その他、学部には附属学校・園、附属病院、農場、演習林、家畜病院などの諸施設や大型練習船などがあり、本学の教育・研究上の特徴をかたちづいています。

このように、人文社会科学、自然科学、生命科学の全分野にわたる教育・研究の専門家や施設・設備が整っていますので、教育面では幅広い教養教育と専門教育を受けることができ、また研究面では食糧問題、家庭・学校・職場などの人間関係、環境問題など複雑かつ重要な地球的・社会的・地域的課題の解決を図ることもできます。

平成9年度に発足した全学合同研究プロジェクトの「大地・食・人間の健康を保全する環境革命への試行 - 鹿児島県をケーススタディーとして -」については、3年間の研究成果の報告を行ったところでありますが、引き続き研究を行うことにいたしました。また、「新しい関係性を求めて - コミュニケーションの諸相 -」並びに「環境プロジェクト開放系 / 半開放系ゴミ処理と地域資源循環型社会の構築に関する研究」の2つのプロジェクトが成果をあげつつあります。新たに「地域学の創造 - 新しい鹿児島学 -」が本年度からスタートすることになります。

本学は、自然に恵まれた人情味豊かな鹿児島の地にあります。市街地の中心部を占めるキャンパスには、南国特有のヤシやソテツ、桜並木、自然林、農園、池などがあり、陸上競技場、プールなどの諸施設も整っています。まさに、学問、スポーツ、市民との交流、様々な活動に適した環境にあるということが出来ます。

本学はいま、50余年の歴史と伝統を踏まえつつ、学問の継承と知的創造並びに情報化、国際化、少子・高齢化、高度技術化などの社会の変化に対応する教育・研究や産学官民連携などの社会貢献のさらなる発展を旨として継続的な自己改革を進めています。

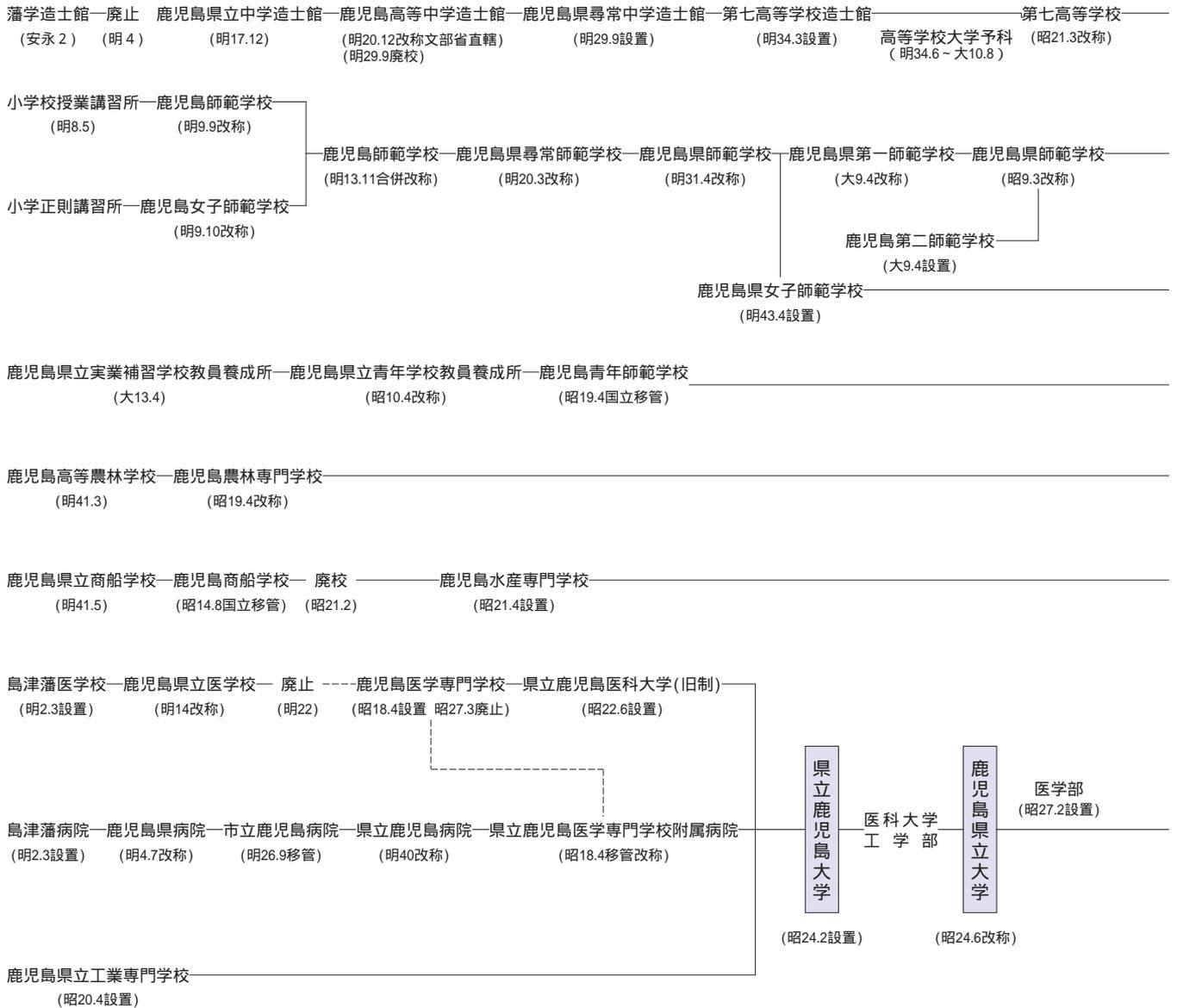
学 年 暦

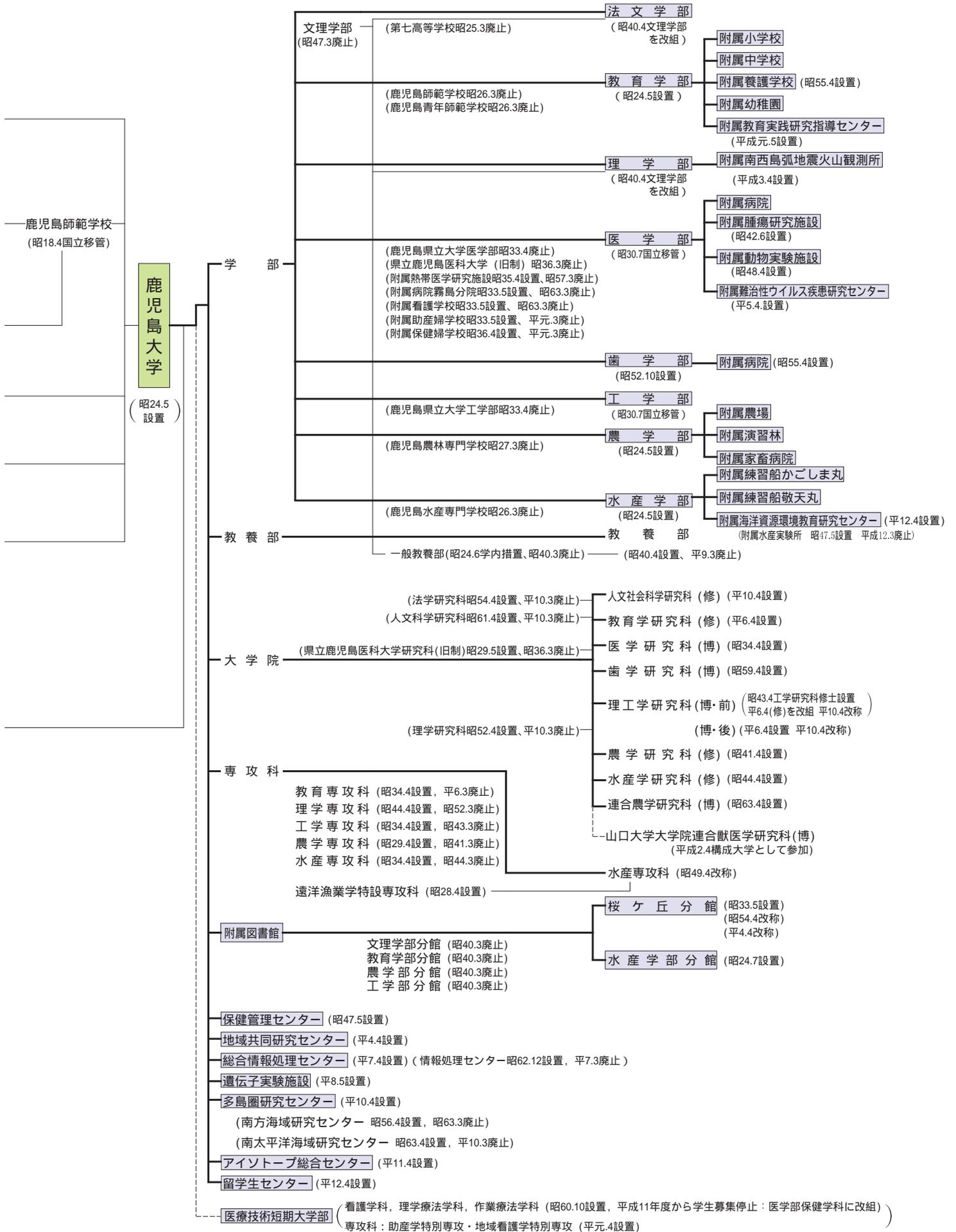
| | | |
|-------|----------|-------------|
| 学 年 | 前 期 | 4月1日～9月30日 |
| | 後 期 | 10月1日～3月31日 |
| 入 学 式 | | 4月7日 |
| 休 業 | 春 季 休 業 | 4月1日～4月10日 |
| | 夏 季 休 業 | 7月11日～9月10日 |
| | 冬 季 休 業 | 12月25日～1月8日 |
| | 鹿児島大学記念日 | 11月15日 |
| 卒 業 式 | | 3月23日 |

Contents

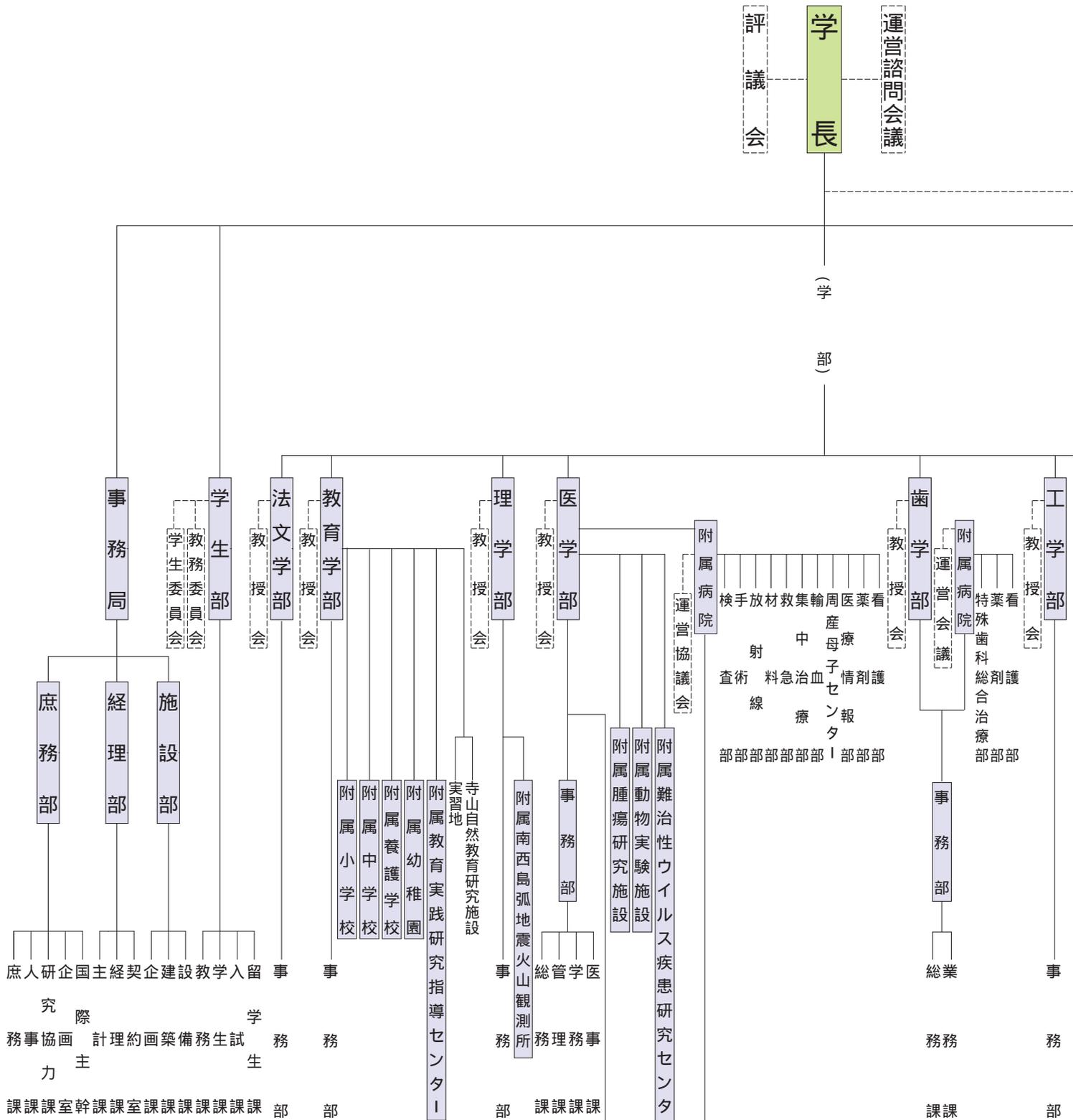
| | | | |
|-----------------------|----|----------------------|----|
| 沿革概要図 | 2 | 卒業（修了）生数及び就職状況 | 36 |
| 運営機構図 | 4 | 学位授与状況 | 37 |
| 共通教育等 | 6 | 奨学生 | 37 |
| 学部・大学院等 | 7 | 外国人研究者の受入状況 | 38 |
| 医療技術短期大学部 | 18 | 国際学術交流協定大学 | 38 |
| 山口大学大学院連合獣医学研究科 | 18 | 学術刊行物 | 39 |
| 附属図書館 | 19 | 研究員等の受入状況 | 39 |
| 学内共同教育研究施設 | 21 | 歳入歳出決算 | 40 |
| 全学共同利用施設 | 22 | 各種学術研究費 | 40 |
| 厚生施設等 | 23 | 公開講座 | 42 |
| 全学合同研究プロジェクト | 25 | 土地・建物・船舶 | 43 |
| 歴代学長 | 27 | 地区別建物等配置図 | 44 |
| 役職員 | 27 | 交通機関利用略図 | 46 |
| 職員の現員 | 29 | 所在地一覧 | 47 |
| 学生の定員・現員 | 30 | キャンパスの全景 | 48 |
| 外国人留学生 | 33 | 鹿児島大学位置図 | 49 |
| 入学状況 | 34 | | |

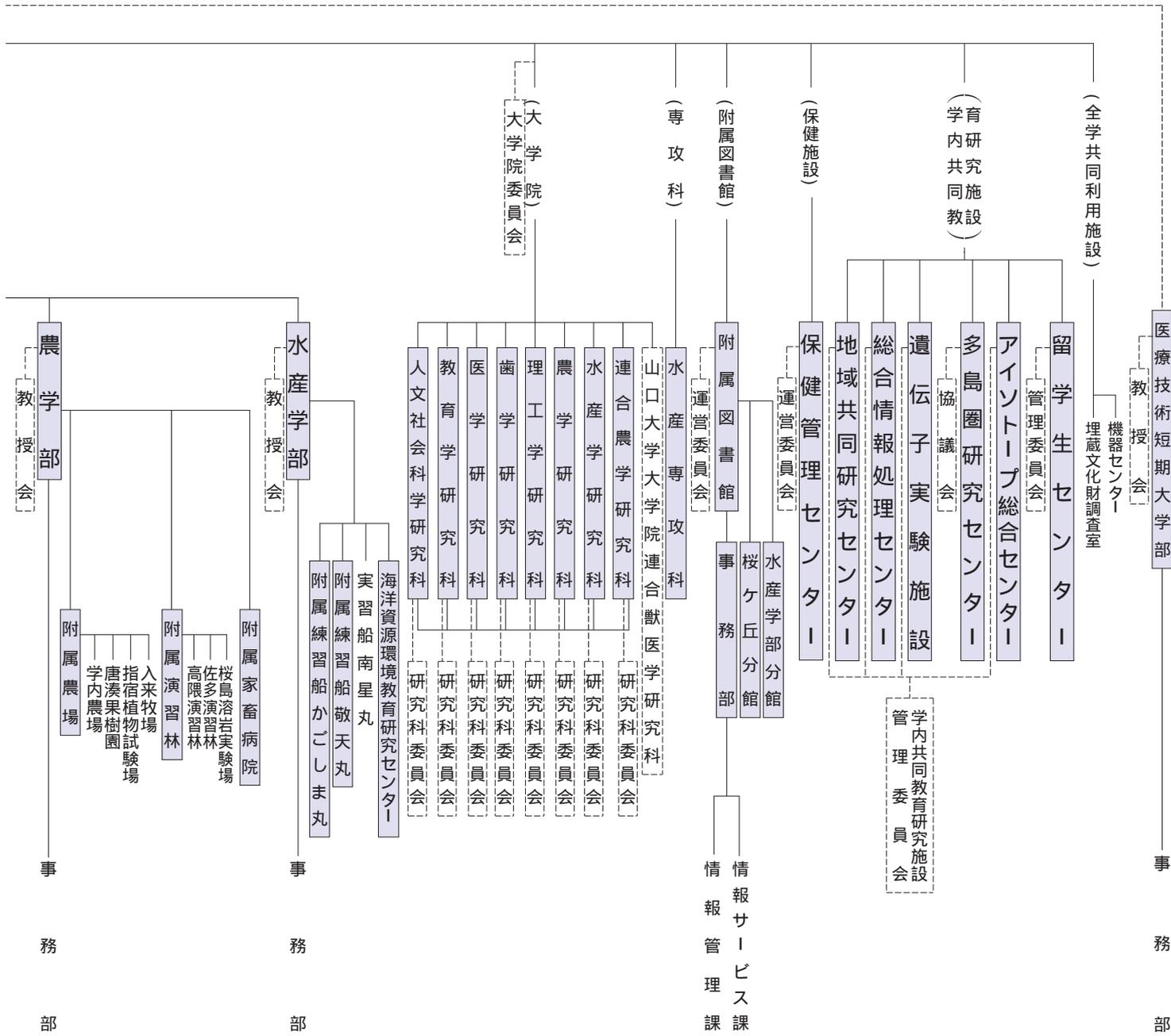
沿革概要図





運営機構図





共通教育等



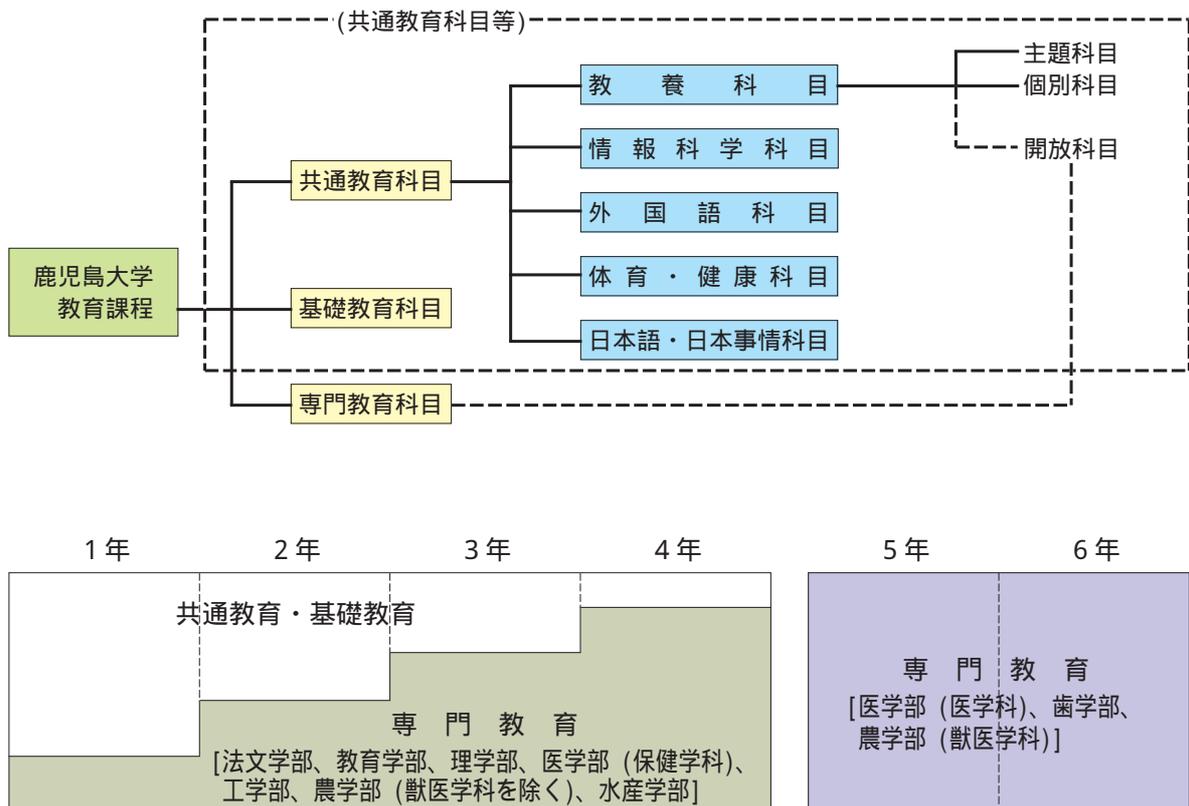
鹿児島大学では、平成3年の大学設置基準の大綱化にともない、組織改革と教育改革を実施した。「鹿児島大学の新しい教育」においては、これまでの一般教育科目等にかわって共通教育科目等を導入することとした。

このため、平成9年3月に教養部を廃止し、それに代わる共通教育の企画・運営の責任組織として、鹿児島大学共通教育委員会を設置して、4（6）年一貫教育を全学教官の協力体制で実施している。

本学の教育は、共通教育科目、基礎教育科目、専門教育科目の三本柱に区分され、その内、共通教育科目は、教養科目、情報科学科目、外国語科目、体育・健康科目及び外国人留学生のための日本語・日本事情科目で構成されている。

共通教育の理念は、「幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養すること」にある。本学は、8つの学部からなる総合大学であるという特性を活かし、各科目の充実を目指すとともに、従来の伝統的学問体系に根差した個別科目だけでなく、特定の今日的テーマを中心とした主題科目や学際的な視点から複数の教官が共同して授業する総合科目、それに専門教育科目の一部を「開放科目」として開講するなど、共通教育の理念の実現を目指して、教育内容の高度化と多様化を図っている。

(教育課程の構成)



学部・大学院等

法文学部 人文社会科学研究科



法文学部は、昭和24年鹿児島大学の発足に伴い、第七高等学校を母体として設置された「文理学部」を改組し、昭和40年4月から法学科、経済学科及び文学科の3学科をもって発足した。昭和54年4月の改組により文学科は人文学科に、平成9年4月の改組により、法学科は法政策学科に、経済学科は経済情報学科になった。また、昭和54年4月、法学研究科（修士課程）法学専攻が設置され、昭和61年4月には人文社会科学研究科（修士課程）文化基礎論専攻、地域文化論専攻が設置された。なお、平成10年4月には、法学研究科と人文社会科学研究科を発展的に解消し、人文社会科学研究科（修士課程）を設置し、法学・経済社会システム・人間環境文化論・国際総合文化論の4専攻を設けた。法学専攻と経済社会システム専攻では社会人学生を受け入れている。

創設以来本学部は、南九州における人文・社会科学に関する教育研究の中心として官界、産業界及び教育界に数多くの人材を送り出してきた。3学科に共通して言えることは、それぞれの専門的知識の修得に基づいた人間形成を目標としたカリキュラムの編成が行われていることである。ことに、平成9年4月の改組により、3学科ともに授業内容を充実し、新しい学問・研究・教育体系による情報化、国際化などの地域社会の変化に対応できる人材育成を目標としている。



演習風景

| 学 科 | 講 座 |
|-------------|-------------------------------------|
| 法 政 策 学 科 | 政策科学、市民法、法交渉 |
| 経 済 情 報 学 科 | 経済システム、経営情報、地域計画、国際協力 |
| 人 文 学 科 | 人間科学、地域環境、日本・アジア総合文化、ヨーロッパ・アメリカ総合文化 |

| 研 究 科 | 課 程 | 専 攻 |
|-----------|-----|-------------------------------------|
| 人文社会科学研究科 | 修 士 | 法学専攻、経済社会システム専攻、人間環境文化論専攻、国際総合文化論専攻 |

教育学部

教育学研究科



教育学部は、小学校授業講習所・師範学校から引き続き、国民の知的水準の向上と文化の発展に責任感と使命感を持ち積極的に寄与できる教員の養成を目指し、長年にわたって多くの有為な人材を世に送り、鹿児島県の教育界はもとより広く各界に貢献してきた。

平成6年4月から大学院教育学研究科（修士課程）が開設され、教育研究や教員養成の機能をさらに高めるとともに、現職教員の受け入れにより現場教員の資質の向上にも尽力している。

わが国社会の急激な変化や児童生徒の問題行動の多発等により、新しい時代の指導者の養成と学校における諸課題を的確に解決できる資質を備えた教員の養成が強く求められており、教育学部は、これらの社会的要請に応えて、平成9年4月から従来の学校教員養成課程の構成、カリキュラム及び履修方法の全面的な改革に加え、教育学部の特徴を生かしながら国・地方公共団体等の職員を始め、広く活躍できる新しい時代の指導者の養成を目指し「生涯教育総合課程」を新設した。

教育学部には、附属の教育実践研究指導センター・4附属学校園（小学校・中学校・養護学校・幼稚園）及び、寺山自然教育研究施設が設置され、実践的研究を深めるとともに学生の実習の指導に当たっている。



デザインの授業風景

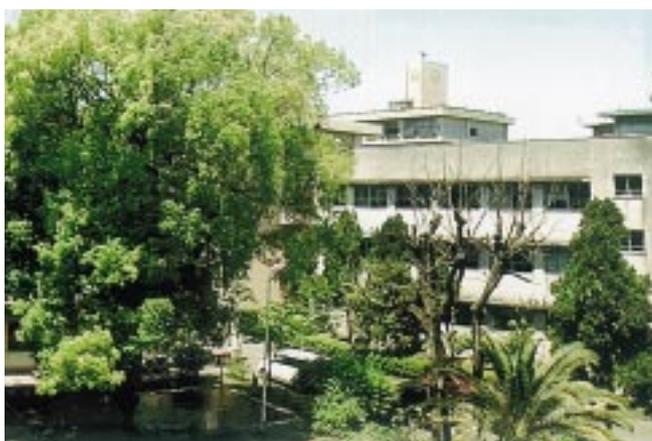
| 課程等 | 講座等 |
|------------|---|
| 学校教育教員養成課程 | *国語教育、*社会科教育、数学教育、*理科教育、*音楽教育、*美術教育、*保健体育、*技術教育、*家政教育、*英語教育、*学校教育 |
| 養護学校教員養成課程 | |
| 生涯教育総合課程 | |
| 附属教育研究施設 | 小学校、中学校、養護学校、幼稚園、教育実践研究指導センター |

(注) 1. *印は講座、他は学科目を示す。

| 研究科 | 課程 | 専攻 |
|--------|----|---------------|
| 教育学研究科 | 修士 | 学校教育専攻、教科教育専攻 |

理 学 部

理工学研究科



理学部は昭和40年に旧文理学部の改組拡充により発足し、昭和52年には大学院理学研究科が、さらに平成3年には附属南西島弧地震火山観測所が設置された。そして平成9年4月に、それまでの5学科（数学、物理、化学、地学、生物）が改組され、数理情報科学、物理科学、生命化学、地球環境科学の4学科に統合再編成され数理・情報・物理・宇宙・化学・生命・地球・環境の8教育コースを設けた。

さらに、平成10年4月には、大学院理学研究科を工学研究科と統合し、理工学研究科が設立され、理系の博士前期専攻は数理情報科学、物理科学、生命化学、地球環境科学の4専攻に改組され、博士後期課程としては生命物質システム専攻が新設された。

本学部は、南九州地区における唯一の基礎自然科学系学部として、教育研究を進めるとともに、南九州の多様な自然環境に関連した研究を通じて、地域社会とも密接な関係を持ち、その発展に貢献している。本学部における教育は、個々の専門分野での深い知識を与えることだけでなく、広く科学的な考えを身につけ、高度化した現代社会の多様な要求に柔軟に応えることのできる人材を育成することを目標にし、21世紀に向けての新たな展開を目指している。



世界自然遺産“屋久島”で県屋久島環境文化研修センターと鹿児島大学理学部とで共催した屋久島の自然を探る観察会。特徴的な隆起サンゴ石灰岩が広がる屋久町春日浜で。

| 学 科 等 | 講 座 等 |
|----------|-----------------------|
| 数理情報科学科 | 数理構造、現象数理、情報数理 |
| 物理科学科 | 物性理論、固体物理、宇宙情報 |
| 生命化学科 | 分子機能化学、有機生化学、生命機能 |
| 地球環境科学科 | 地質科学、島弧火山、環境解析、多様性生物学 |
| 附属教育研究施設 | 南西島弧地震火山観測所 |

| 研 究 科 | 課 程 | 専 攻 | |
|--------|------|-----|--|
| 理工学研究科 | 博士前期 | 工学系 | 機械工学専攻、電気電子工学専攻、建築学専攻、応用化学工学専攻、海洋土木工学専攻、情報工学専攻 |
| | | 理学系 | 数理情報科学専攻、物理科学専攻、生命化学専攻、地球環境科学専攻 |
| | 博士後期 | 工学系 | 物質生産工学専攻、システム情報工学専攻 |
| | | 理学系 | 生命物質システム専攻 |

医 学 部

医学研究科



病理学実習

医学部の前身は、明治2年に設立された英国式の医学校の島津藩医学校である。初代の校長であったウィリアム・ウイリス博士は、鹿児島に西洋医学を紹介し、この学校で多くの日本人生徒の教育に努めた。

母体となる県立鹿児島医学専門学校は、昭和18年に開校し、その後、昭和22年に県立鹿児島医科大学、昭和27年に鹿児島県立大学医学部、昭和30年に国立移管され鹿児島大学医学部と変遷をたどった。

また、昭和49年に鹿児島市山下町の旧七高跡地から桜島を臨む高台の桜ヶ丘に移転し、現在に至っている。

本学部は、医学科の基礎系15、臨床系21の36講座、保健学科の3専攻（8講座）、4附属施設及び事務部で構成されている。中でも平成5年に設置された難治性ウイルス疾患研究センターは、南九州に多い難治性疾患についてヒトレトロウイルス研究分野、臓器癌ウイルス研究分野、分子病理・遺伝子疫学研究分野の三分野における基礎・臨床両面での研究を積極的に進めている。

平成12年10月からは、大学卒業者を第2年次後期に編入学させる学士編入学制度がスタートする。

なお、保健学科は、優れた医療技術者の育成を目指して、平成10年10月に設置され、平成11年4月から受入れを開始した。

また、大学院医学研究科は、昭和34年に設置され、生理系・病理系・社会医学系・内科系・外科系の5専攻が置かれている。さらに、平成11年度から秋季（10月）入学制度及び昼夜開講の社会人入学制度を導入し、地域医療や医学関連分野で活躍している社会人に門戸を広げた。

| 学 科 等 | | 講 座 等 |
|-----------------|---------|--|
| 医 学 科 | | 解剖学第一、解剖学第二、生理学第一、生理学第二、生化学第一、生化学第二、薬理学、病理学第一、病理学第二、細菌学、ウイルス学、衛生学、公衆衛生学、医動物学、法医学、内科学第一、内科学第二、内科学第三、リハビリテーション医学、神経精神医学、小児科学、外科学第一、外科学第二、脳神経外科学、整形外科学、皮膚科学、泌尿器科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、放射線医学、産科学婦人科学、麻酔・蘇生学、臨床検査医学、小児外科学、医療情報管理学、医療総合科学 |
| 保健学科 | 看護学専攻 | 総合基礎看護学、臨床看護学、母性・小児看護学、地域看護・看護情報学 |
| | 理学療法学専攻 | 基礎理学療法学、臨床理学療法学 |
| | 作業療法学専攻 | 基礎作業療法学、臨床作業療法学 |
| 附 属 教 育 研 究 施 設 | | 附属病院：19診療科710床（リハビリテーション科（霧島リハビリテーションセンター）50床含む） 腫瘍研究施設 動物実験施設 難治性ウイルス疾患研究センター |

| 研 究 科 | 課 程 | 専 攻 |
|-----------|-----|---------------------------------|
| 医 学 研 究 科 | 博 士 | 生理系専攻、病理系専攻、社会医学系専攻、内科系専攻、外科系専攻 |

医学部附属病院



医学部附属病院の前身である島津藩病院は、明治2年に設立された。その後、県立鹿児島医学専門学校附属病院、県立鹿児島大学医学部附属病院を経て、昭和33年に国立移管され、鹿児島大学医学部附属病院と改称し、現在に至っている。

本院は、医学教育・研究実践の場であると同時に、地域における中枢的医療機関としての使命を持っている。

現在、19の診療科、13の中央診療施設等、薬剤部、看護部及び事務部で構成されており、特定機能病院として、重症・難病患者の診療、高度先進医療、末期医療への取り組み及び高齢化社会に対応した医療体制の確立に向けて、積極的に取り組んでいる。



手術風景

(平成11年度)

| 診療科名 | 患者数 | | 病床数 | 診療科名 | 患者数 | | 病床数 |
|------------|--------|--------|-----|---------|---------|---------|-----|
| | 入院 | 外来 | | | 入院 | 外来 | |
| 第一内科 | 18,514 | 18,163 | 50 | 泌尿器科 | 9,452 | 8,867 | 29 |
| 第二内科 | 19,558 | 18,545 | 55 | 眼科 | 9,446 | 20,849 | 29 |
| 第三内科 | 15,445 | 14,720 | 42 | 耳鼻咽喉科 | 10,603 | 15,112 | 34 |
| リハビリテーション科 | 16,423 | 10,420 | 50 | 放射線科 | 8,050 | 5,757 | 23 |
| 神経科精神科 | 14,166 | 13,954 | 45 | 産科婦人科 | 15,438 | 15,016 | 48 |
| 小児科 | 13,214 | 14,163 | 40 | 麻酔科蘇生科 | 727 | 2,554 | 3 |
| 第一外科 | 17,187 | 8,417 | 51 | 小児外科 | 4,002 | 3,992 | 9 |
| 第二外科 | 17,584 | 10,371 | 52 | 心身医療科 | 1,851 | 10,836 | 5 |
| 脳神経外科 | 8,566 | 6,232 | 20 | 共用 | (7,676) | 0 | 43 |
| 整形外科 | 17,496 | 15,231 | 50 | 放射線治療病室 | (67) | 0 | 3 |
| 皮膚科 | 9,676 | 14,909 | 29 | 計 | 227,398 | 228,108 | 710 |

(注) () は再掲

歯 学 部

歯学研究科



歯学部は、沖縄を含む南九州全域における歯科医学の教育、研究の中核的役割を果たすべく、昭和52年10月に設置された。

歯科医学は口腔諸器官の構造と機能を正常に維持しつつ、人間の健康を守る学問であり、本学部では、う蝕、歯周疾患、咬合異常、腫瘍、外傷、形成不全など正常な口腔機能とそれを損なう原因と予防法を総合的に追求し、その対策を研究するとともに、歯科医学を通じて社会の発展に十分に貢献しうる人材を育成することを目標にしている。

教育においては、人間形成に資するため共通教育科目を学習させることにも力を入れるとともに、歯学概論や社会歯科学をはじめ内科学、外科学など医学全般についても重視することとし、医学的学問を基礎とした歯科医学教育を目指している。また、独特な教育制度として、学生が講座の実験などに参加する選択科目制度を設け、学生が独自の個性と創造力を伸ばすことができるよう配慮している。

大学院歯学研究科（博士課程）においては、自立して研究活動を行うに必要な能力と学識を修得させ、歯科医学の研究、教育の指導的人材を育成することを目標としている。なお、平成11年度より昼夜開講制度を取り入れるとともに、博士（歯学）に加えて、最初の博士（学術）の学位の授与を行った。



授業風景

| 学 科 等 | 講 座 等 |
|----------|---|
| 歯 学 科 | 口腔解剖学（1）、口腔解剖学（2）、口腔生理学、口腔生化学、口腔病理学、口腔細菌学、歯科薬理学、歯科理工学、歯科基礎科学、予防歯科学、歯科保存学（1）、歯科保存学（2）、歯科補綴学（1）、歯科補綴学（2）、口腔外科学（1）、口腔外科学（2）、歯科矯正学、小児歯科学、歯科放射線学 |
| 附属教育研究施設 | 附属病院（11診療科（歯科麻酔科を含む）、40床） |

（注）1. 講座数

大講座制をとり、19講座相当（基礎 9講座相当、臨床 10講座相当）

2. 大講座については、講座相当として（1）、（2）で記入した。

| 研究科 | 課 程 | 専 攻 |
|-----------|-----|------|
| 歯 学 研 究 科 | 博 士 | 歯学専攻 |

歯学部附属病院



昭和55年に創設された歯学部附属病院は、診療を通して歯科医学の教育を行うとともに、南九州における唯一の歯科総合病院として、歯科医療の発展と地域住民の口腔保健の向上に寄与してきた。現在、11診療科と病室（40床）のほか、中央診療施設として特殊歯科総合治療部、中央診療室として臨床検査室、技工室など13室並びに看護部、薬剤部及び事務部で運営されている。本院は、外来や入院患者の診療はもとより、歯学部学生の臨床教育及び本学医学部保健学科、県下の看護学校や歯科衛生士学校からの受託実習生の教育、歯科医師の卒後研修、研修登録医の生涯研修、更に離島僻地の歯科診療にも貢献している。また本院は高度先進医療、病院歯科及び薬剤管理指導の医療機関として認定を受け、地域医療に貢献している。



診療風景

(平成11年度)

| 診療科名 | 患者数 | | 病床数 | 診療科名 | 患者数 | | 病床数 |
|--------|-------|--------|-----|-------------|--------|--------|-----|
| | 入院 | 外来 | | | 入院 | 外来 | |
| 予防歯科 | 0 | 5,622 | 共通 | 第二口腔外科 | 5,426 | 8,243 | 共通 |
| 保存科 | 0 | 12,453 | | 矯正科 | 0 | 7,543 | |
| 歯周病治療科 | 0 | 16,018 | | 小児歯科 | 51 | 8,522 | |
| 第一補綴科 | 0 | 10,280 | | 歯科放射線科 | 0 | 490 | |
| 第二補綴科 | 0 | 11,215 | | 歯科麻酔科 | 0 | 1,225 | |
| 第一口腔外科 | 5,443 | 8,360 | | 特殊疾患患者対策治療室 | 0 | 673 | |
| | | | | 計 | 10,920 | 90,644 | |

工 学 部

理工学研究科



衛星放送波を利用した伝搬実験

昭和24年4月鹿児島県立大学の発足に伴い、鹿児島県立工業専門学校を母体として工学部が設置され、同30年県立から国立移管され鹿児島大学工学部となった。創立時は4学科であったが、設置・改組を経て7学科となった。また、昭和43年4月には大学院工学研究科（修士課程）が設置されたが、平成6年4月博士前期課程（6専攻）として改組し、さらに博士後期課程として物質生産工学専攻、システム情報工学専攻が設置された。

工学部は工学を支える基礎研究の中核として、また、国際的視野を持った技術者の養成機関として果たすべき役割は極めて大きく、現代社会の多様化した要請に応じるには、新しい分野の開拓が必要である。

このような新しい分野を開拓すべく広い視野と問題発見及び解決能力のある柔軟な頭脳をもつ研究者・技術者の養成を目指している。

学生は指導教官につき、研究チームの一員となることで人間的にも能力的にも大きな進歩を遂げている。

大学院は新しい分野の開拓とそれを担う研究者・技術者の養成に適した横断的な学問分野で構成されている。また、特別選抜の制度を設け指導方法などを工夫することにより、社会人技術者を積極的に受け入れる体制を整えている。

| 学 科 | 講 座 |
|---------------|-------------------------------|
| 機 械 工 学 科 | 設計生産システム工学、エネルギーシステム工学 |
| 電 気 電 子 工 学 科 | 電子物性デバイス工学、電気エネルギー工学、通信システム工学 |
| 建 築 学 科 | 建築構造構成学、居住環境構成学 |
| 応用化学工学科 | 分子工学、機能材料工学、化学システム工学 |
| 海洋土木工学科 | 環境システム工学、建設システム工学 |
| 情 報 工 学 科 | 知能情報工学、情報システム工学 |
| 生 体 工 学 科 | 生体機能材料、生体電子工学 |
| | 京セラ経営学（寄附講座） |

| 研 究 科 | 課 程 | 専 攻 | |
|--------|------|-----|--|
| 理工学研究科 | 博士前期 | 工学系 | 機械工学専攻、電気電子工学専攻、建築学専攻、応用化学工学専攻、海洋土木工学専攻、情報工学専攻 |
| | | 理学系 | 数理情報科学専攻、物理科学専攻、生命化学専攻、地球環境科学専攻 |
| | 博士後期 | 工学系 | 物質生産工学専攻、システム情報工学専攻 |
| | | 理学系 | 生命物質システム専攻 |

農 学 部

農学研究科



農学部は明治41年開設の国立鹿児島高等農林学校に始まり、昭和19年4月鹿児島農林専門学校と改称、昭和24年鹿児島大学農学部となった。当初の学部組織は農学科、林学科、蚕糸学科、農芸化学科、獣医学科、総合農学科の6学科であったが、その後数回の改組が行われ、現在は生物生産学科、生物資源化学科、生物環境学科、獣医学科の4学科構成となっている。

本学部は桜島を望む恵まれた自然環境のもとで、衣食住の生活物資の持続的生産管理、生物の持つ生命機能を活かした人の健康の増進、人と自然との調和をはかり豊かな緑と潤いのある生活環境づくり、ならびに高度の技術を活かした動物の疾病の予防と治療など、地域との連携をはかりながら、それぞれの分野で幅広い教育と研究を行っている。さらに学部の上には、修士課程（農学研究科）および博士課程（連合農学研究科、連合獣医学研究科）が整備され、教育と研究の充実を図っている。

また学部や大学院では、多様化する社会の二・ズや国際化時代に対応できる広い視野と、より高度な専門的知識と創造力を身につけた人材の養成を目指している。



樹木直径の測定実習（高限演習林にて）

| 学 科 等 | 講 座 等 |
|----------|--|
| 生物生産学科 | 作物生産学、園芸生産学、病害虫制御学、家畜生産学、農業経営経済学 |
| 生物資源化学科 | 生命機能化学、食品機能化学、食糧生産化学 |
| 生物環境学科 | 森林管理学、地域資源環境学、農林工学、生産環境工学 |
| 獣医学科 | 家畜解剖学、家畜生理学、家畜薬理学、家畜病理学、家畜微生物学、獣医公衆衛生学、家畜内科学、家畜外科学、家畜臨床繁殖学 |
| 附属教育研究施設 | 農場、演習林、家畜病院 |

(注) 獣医学科は学科目で示す。

| 研究科 | 課 程 | 専 攻 |
|-----------|-----|--------------------|
| 農 学 研 究 科 | 修 士 | 生物生産学、生物資源化学、生物環境学 |

水産学部

水産学研究科
水産専攻科



航海中の「練習船かごしま丸」

水産学部は、鹿児島大学改革の一環として、21世紀を見据え水圏からの食糧生産と水圏の環境保全に関する総合科学であり、複合科学である「水産学」の教育・研究を進展させるべく教育研究組織の再編を行った。

学部では水産学の基礎的事項の修得に重点を置いた教育が行われる。水産学科では、専門分野を水産総合、水産環境、水産資源の3教育コースに分け教育を行う。学生は教育コースで専門分野を学び、学部の最終学年では下記の5講座に所属し、卒業研究を行い、学部教育の仕上げを行うと同時に、より高度な教育を受けるための素地を養う。水産教員養成課程では、水産学科と同じ専門分野のカリキュラムと水産高校教員免許取得のためのカリキュラムが組み合わせられ、教員としての学識と豊かな人間性、行動力を持った人材養成が行われる。水産学の教育では実地に学理、技術を修得することが重要で、下記の附属教育研究施設等での実験実習がカリキュラムとして多く組み入れられている。

なお、近年の海洋環境（特に沿岸海域）の破壊によって資源生産環境が危機的状況になりつつある中で、食糧生産の確保及び地球環境の保全といった時代の要請に応えるために、平成12年度に附属海洋資源環境教育研究センター（「生物多様性」「環境保全」「開発管理」の3分野）を設置し、当該分野における人材育成、研究成果の地域社会への還元及び国際的な貢献を図ることとしている。

大学院水産学研究科（修士課程）は、今後ますます高度化していくであろう水産各分野に従事する高度な技術者を養成する。本課程には、本学部及び他大学の卒業生、外国人留学生が多く学んでいる。この課程を終え、将来研究者として、また、より高度な技術者を目指し、博士（水産学）の学位取得を望む者には、鹿児島大学大学院連合農学研究科（後期3年の博士課程）がある。

水産専攻科（遠洋漁業専攻）は、学部での教育を基盤に海上での高度技術者を養成するための1年課程の教育組織であり、6ヶ月の乗船実習カリキュラムが組み入れられている。本課程を修了すると三級海技士（航海）の国家試験受験の際、学科試験が免除される特典がある。

| 学科等 | 講座 |
|----------|--|
| 水産学科 | 環境情報科学、漁業基礎工学、海洋社会科学、資源育成科学、資源利用科学 |
| 水産教員養成課程 | |
| 附属教育研究施設 | 附属練習船かごしま丸（1,297トン） |
| | 附属練習船敬天丸（860トン） |
| | 附属海洋資源環境教育研究センター |
| | 実習船南星丸（83トン）、資源利用科学実習棟、回流水槽実験室、鴨池海洋生産実験室 |

| 研究科 | 課程 | 専攻 |
|--------|----|-------|
| 水産学研究科 | 修士 | 水産学専攻 |

| 専攻科 | 専攻 |
|-------|--------|
| 水産専攻科 | 遠洋漁業専攻 |

大学院連合農学研究科



大学院連合農学研究科は、本学を設置大学とし、佐賀大学と宮崎大学を参加大学とする後期3年の独立研究科（博士課程）として昭和63年4月に設置された。平成4年4月には新たに琉球大学の参加が認められ、4大学5研究科の修士課程と附属施設を母体とする体制となった。本研究科は、4大学が連合して共通の博士課程の教育研究を行うという全く新しい制度として発足したものであるが、このことによって各構成大学の教官が密接に関連を持つようになり、大学の枠を越えた、かつ専門領域を越えた協力関係が可能になっている。また、本研究科は、九州・沖縄地区の食糧生産基地としての重要性に立脚し、その専攻に、他の地区の連合農学研究科にはない水産学系専攻を設けていることが大きな特色となっており、農学及び水産学に関する幅広い教育研究を行っている。学生の指導体制については、学生1人について、主指導教官1人と副指導教官2人が研究指導に当たるなど、極めて効率的なものとなっている。また、単位制の授業は行わないが、広く農学及び水産学に関する知識を修得させるとともに、自己の専門分野に深い関連のある分野の知識を修得させるために共通セミナー（一般及び特別）を開講し、その修得を学位申請の必須条件にしている。



共通セミナー（一般）風景

| 課 程 | 専 攻 | 連 合 講 座 |
|-----|----------|------------------------------|
| 博 士 | 生物生産科学 | 植物生産学、動物生産学、農林資源・経営学、熱帯資源生物学 |
| | 生物資源利用科学 | 応用生物化学、資源利用化学、生物機能開発学 |
| | 生物環境保全科学 | 生物環境保護学、生物生産工学 |
| | 水産資源科学 | 海洋生産環境学、水産資源利用学 |

(注) 連合農学研究科は4大学（佐賀、宮崎、鹿児島、琉球）で構成。

医療技術短期大学部



医療技術短期大学部は、鹿児島大学医学部附属看護学校を母体とし、昭和60年10月看護学科、理学療法学科及び作業療法学科の3学科で発足した。また、平成元年4月に鹿児島大学医学部附属助産婦学校及び保健婦学校を母体とし、専攻科助産学特別専攻及び地域看護学特別専攻が設置された。

本短期大学部は、看護、理学療法及び作業療法に関する高度の知識及び技術を教授研究し、豊かな教養と人格を備え、広く国民の保健医療の向上に寄与することのできる医療技術者を育成することを目的として開設され、3年（専攻科1年）修学し、国家試験合格後、それぞれ看護婦（士）、理学療法士、作業療法士、助産婦及び保健婦（士）の免許が与えられる。

本短期大学部は公開講座を年4回開催するなど、地域に密着した活動を行っており、また、学生のボランティア活動も盛んで、「乳児健康審査」等に毎年参加している。

なお、本短期大学部は平成11年4月に医学部保健学科に発展的に改組し、在学生在が卒業するまで存続することになっている。



看護学科実習風景

山口大学大学院連合獣医学研究科



連合獣医学研究科は、平成2年4月に鹿児島大学、鳥取大学、山口大学および宮崎大学が連合して設置された修業年限4年の博士課程である。基幹校を山口大学に置き、四大学が連合して共同研究や学術研究などを通じて幅広い教育研究が行われている。

本研究科は、1専攻（獣医学専攻）で、3連合講座から成り、学生の入学定員は12名であるが、学術研究の高度化、国際化および社会人の再教育などの社会的ニーズに対応するために、獣医学士のみならず、他の分野の卒業生、外国人および社会人を積極的に受け入れ、創造性豊かな研究者や高度の専門的知識と能力を有する人材を養成している。学生1人につき、主指導教官1人、副指導教官2人が指導に当たるが、他大学の教官ならびに学生相互の討論を通して、自己を高めると同時に相互の親睦と連帯感の形成に役立っている。

| 課程 | 専攻 | 連合講座 |
|----|-----|----------------------|
| 博士 | 獣医学 | 基礎獣医学、病態・予防獣医学、臨床獣医学 |

(注) 山口大学大学院連合獣医学研究科は4大学（鳥取、山口、宮崎、鹿児島）で構成。

附属図書館

URL <http://websv.lib.kagoshima-u.ac.jp>

附属図書館は、中央図書館（郡元地区）、桜ヶ丘分館（桜ヶ丘地区）及び水産学部分館（下荒田地区）の3館で組織されており、本学の学生及び教職員の学習・研究のために必要な図書館資料を広い分野にわたり収集し利用に供している。また、キャンパスネットワークを介して多様な学術情報の提供も行っている。

中央図書館は、国立大学に9館設置してある外国雑誌センター館の一つとして農学系雑誌を多数収集し、学内及び全国共同利用サービスセンターとしての役割も果たしている。

また、特殊文庫として島津久光及び島津玉里邸の旧蔵書である「玉里文庫」を所蔵している。

桜ヶ丘分館は、主として医学部・歯学部・医療技術短期大学部を、水産学部分館は、主として水産学部をサービス対象にしているが、利用者は、中央図書館及び二つの分館を共通に利用できる。

利用者へのサービスとして、閲覧・貸出をはじめ、所在調査・事項調査等のレファレンス・サービス、文献複写、情報検索、大学図書館間相互利用等を行っている。

●開館時間

| 区 分 | 授 業 期 | | | 休 業 期・3月 | | |
|--------|----------------|-----------------|-----------------|----------------|-----------------|-----------------|
| | 月～金 | 土 | 日 | 月～金 | 土 | 日 |
| 中央図書館 | | | 10:00 ～17:00 | 9:00 ～17:00 | 閉 館 | 閉 館 |
| 桜ヶ丘分館 | 9:00 ～20:00 | 10:00 ～17:00 | 12:00 ～16:00 | 9:00 ～20:00 | 10:00 ～17:00 | 12:00 ～16:00 |
| 水産学部分館 | | | 閉 館 | 9:00 ～17:00 | | 閉 館 |

休館日

日曜日（中央図書館・桜ヶ丘分館を除く）
 「国民の祝日に関する法律」に規定する日
 鹿児島大学記念日（11月15日）
 年末・年始（12月27日～1月5日）



中央図書館

●蔵書数

図書(冊)

(平成12年5月1日現在)

| 区 分 | | 総 記 | 哲 学 | 歴 史 | 社会科学 | 自然科学 | 技 術 | 産 業 | 芸 術 | 言 語 | 文 学 | 合 計 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|---------|---------|---------|--------|--------|--------|---------|-----------|
| 和 漢 書 | 中央図書館 | 65,237 | 43,305 | 72,792 | 196,636 | 113,168 | 70,270 | 54,204 | 29,299 | 26,336 | 71,253 | 742,500 |
| | 桜ヶ丘分館 | 1,069 | 1,584 | 703 | 5,422 | 89,339 | 1,076 | 226 | 654 | 1,940 | 1,446 | 103,459 |
| | 水産学部分館 | 2,307 | 716 | 2,959 | 14,746 | 14,484 | 9,296 | 16,531 | 1,083 | 1,340 | 829 | 64,291 |
| | 小 計 | 68,613 | 45,605 | 76,454 | 216,804 | 216,991 | 80,642 | 70,961 | 31,036 | 29,616 | 73,528 | 910,250 |
| 洋 書 | 中央図書館 | 16,567 | 19,249 | 16,691 | 52,732 | 82,076 | 19,755 | 20,427 | 4,333 | 13,238 | 33,565 | 278,633 |
| | 桜ヶ丘分館 | 941 | 309 | 106 | 562 | 76,179 | 86 | 52 | 84 | 450 | 462 | 79,231 |
| | 水産学部分館 | 772 | 135 | 326 | 1,088 | 5,913 | 2,847 | 4,558 | 302 | 359 | 87 | 16,387 |
| | 小 計 | 18,280 | 19,693 | 17,123 | 54,382 | 164,168 | 22,688 | 25,037 | 4,719 | 14,047 | 34,114 | 374,251 |
| 合 計 | | 86,893 | 65,298 | 93,577 | 271,186 | 381,159 | 103,330 | 95,998 | 35,755 | 43,663 | 107,642 | 1,284,501 |

雑誌(種類数)

| 区 分 | 和 漢 書 | 洋 書 | 計 |
|--------|--------|-------|--------|
| 中央図書館 | 11,007 | 4,811 | 15,818 |
| 桜ヶ丘分館 | 1,718 | 1,735 | 3,453 |
| 水産学部分館 | 1,155 | 530 | 1,685 |
| 合 計 | 13,880 | 7,076 | 20,956 |

中央図書館 (地上5階地下2階建 延床面積 12,697㎡)

(平成12年5月1日現在)

| 区分 | 室名及びコーナー | 内 容 | 区分 | 室名及びコーナー | 内 容 |
|------|---|--|----|---|--|
| 地下1階 | 開架書庫 | 新聞、洋雑誌(1979年以前)、 和雑誌(稀用雑誌)、政府刊行物等 | 3階 | 固定書架 集密書架 | 一般図書(総記、哲学、歴史、社会科学) 国内大学の紀要 |
| 地下2階 | 開架書庫 | 稀用図書 | | 参考図書コーナー 放送大学教材コーナー 郷土資料コーナー PACSコーナー 複写コーナー ラウンジ 研究個室31~36 グループ学習室31 | ハンドブック等 放送大学教材 鹿児島関係資料、玉里文庫複製本等 OPAC端末2台 プリペイドカード式コピー機1台 6室 ビデオプロジェクター、定員24名 |
| 1階 | メインカウンター レファレンスカウンター PACSコーナー 新聞閲覧コーナー 参考図書コーナー 国際交流コーナー 地形図コーナー 本学関係者著作寄贈図書コーナー CSコーナー 展示コーナー 複写コーナー カード目録コーナー マルチメディア端末室 リーダープリンタ室 視聴覚・マイクロ資料室 情報検索室 | 貸出、返却、利用案内等 参考調査、相互貸借受付 OPAC用端末6台 地方紙を含む新聞 参考図書、二次資料、蔵書目録 留学生、国際理解のための図書資料 日本全国の5万分の1の地形図 本学関係者著作及び学内発行紀要等 放送大学、BBC、CNN 展示ケース2台 カラーコピー機1台(校費用)、プリペイドカード式コピー機1台 昭和40-63年度受入図書目録 WindowsNT16台 リーダープリンタ2台、リーダー2台、CD-ROM検索 視聴覚・マイクロ資料、テレビデオ2台 オンライン情報検索 | 4階 | 固定書架 集密書架 参考図書コーナー PACSコーナー 複写コーナー ラウンジ 研究個室41~46 研究者談話室 | 一般図書(自然科学、技術、産業、芸術、言語、文学) 稀用図書(洋書)、大型コレクション ハンドブック等 OPAC端末2台 プリペイドカード式コピー機1台 6室 |
| | 2階 | 固定書架 集密書架 ブラウジングコーナー 新着雑誌コーナー PACSコーナー 複写コーナー 研究個室 グループ学習室21~22 | | 外国雑誌バックナンバー(1980年以降) 国内購入雑誌バックナンバー 一般雑誌、グラビア誌 国内及び外国新着雑誌 OPAC用端末2台 校費用及びプリペイドカード式コピー機各1台 6室 2室(各定員12名) | A Vホール 貴重書庫 貴重図書閲覧室 特殊資料書庫 |

●桜ヶ丘分館 (地上3階建 延床面積 1,980㎡)

| 区分 | 室名及びコーナー | 内 容 |
|----|--|---|
| 1階 | カウンター PACSコーナー 目録コーナー 複写コーナー 新聞閲覧コーナー 新着雑誌展示室 書庫(集密書架) | WindowsNT6台、Mac2台 カラーコピー機1台 新聞 新着雑誌 稀用資料 |
| 2階 | PACSコーナー 複写コーナー ビデオコーナー | WindowsNT2台 校費用1台、プリペイドカード式1台 VHS 参考図書、二次資料 カレント雑誌 欧文雑誌バックナンバー |
| 3階 | PACSコーナー 複写コーナー | WindowsNT2台 プリペイドカード式1台 図書(和書、洋書) 和文雑誌バックナンバー |



レファレンスカウンター

●水産学部分館 (地上2階建 延床面積 849㎡)

| 区分 | 室名及びコーナー | 内 容 |
|----|--|--|
| 1階 | カウンター PACSコーナー 新聞閲覧・新着雑誌コーナー 複写コーナー 読書コーナー | WindowsNT2台、Mac1台 新聞・新着雑誌 校費用コピー機1台 稀用図書、雑誌 |
| 2階 | 閲覧室 PACSコーナー 視聴覚室 雑誌室 | 参考図書、単行本、逐次刊行物、修士論文 WindowsNT7台 ビデオ資料 国内大学紀要 |



閲覧風景

学内共同教育研究施設

地域共同研究センター

地域共同研究センターは、本学と地方公共団体や民間企業との相互協力による共同研究等を推進し、本学の教育研究の進展に資するとともに地域社会における技術開発及び技術教育等の振興に資することを目的として、平成4年4月に設置された。

センターでは、本学の研究シーズと企業の技術ニーズのマッチングを行うとともに、各種セミナーや技術研修等を行っており、産学官連携の窓口として、重要な役割を担っている。



総合情報処理センター

総合情報処理センターは、本学のコンピュータシステム及びキャンパス情報ネットワークを管理運用し、これらを教育研究等本学の情報処理のための利用に供することを目的として、平成7年4月に設置された。

センターは、学内の情報処理、及び情報伝達の中核的な組織として、教育研究を支援し、本学の情報化の推進に寄与している。



遺伝子実験施設

遺伝子実験施設は、組換えDNA実験その他の遺伝子実験に関する教育研究及び安全管理を行うことにより、本学における遺伝子研究の総合的推進を図ることを目的として、平成8年5月に設置された。

近年、分子生物学を基礎としたバイオテクノロジーは、各分野に導入され、特に、遺伝子組み換え技術は、21世紀にかけて実用レベルで大きな発展が予想され、本施設を利用した教育研究の成果が大いに期待される。



多島圏研究センター

多島圏研究センターは、アジア太平洋の多島域について、学際的な調査研究を実施して学術の国際交流を図り、これらの地域の福祉発展に寄与することを目的として、平成10年4月に設置された。

センターでは、人と自然の相互作用、地形・生物伝播等の自然地理、社会・文化変容と自然環境、社会医学的環境、国際社会の島嶼国家の役割、の5つの課題を設定し、学内兼務教官や学外協力者と連携協力しながら、フィールドワークを重視した研究活動に取り組んでいる。



ヤップ島学術調査（ガチュバル村にて）

アイソトープ総合センター

アイソトープ総合センターは、本学の放射性同位元素（R I）を利用する教育研究に資するとともに、安全管理に関し中心的な役割を担うことを目的として、平成11年4月に設置された。

センターは、学内の各R I施設と連携して、R Iの安全管理、R I取扱者に対する教育訓練、最新のR I実験方法等の情報収集・提供など、R Iの利用に関する総合的な業務を行うこととしているが、センター施設が未整備なため早急な施設整備が望まれている。

留学生センター

留学生センターは、外国人留学生及び海外留学を希望する本学の学生に、必要な教育及び指導助言等を行うことにより、本学における国際交流の推進に寄与することを目的として、平成12年4月に設置された。

この目的のために、外国人留学生に対する、日本語予備教育、日本語及び日本事情に関する教育、修学上及び生活上の指導助言、さらに外国人留学生と地域社会との交流の推進や、海外留学を希望する学生への情報提供及び指導助言等の業務を行っている。

全学共同利用施設

機器センター

各局に分散して運用されてきた共用性の高い大型機器を集約して、合理的に管理、運営するために平成10年5月に設置された。全学的視野からみた機器の計画的導入を図り、研究者の有効な利用に供するほか、地域の教育研究機関をも含めた共同研究の促進を図る。1) 高性能の大型測定機器の設置、整備及び管理運営 2) 測定の依頼に対する総合データの正確かつ迅速な提供 3) 学内外の非専門家を対象とした分析、計測に関する講義及び実習 4) 各種の機器による測定のデータ集積とその検索サービス等を行う。

埋蔵文化財調査室

本学の郡元キャンパスと桜ヶ丘キャンパスは、旧石器時代から近代までの長期にわたる遺跡である。特に、郡元キャンパスは弥生時代の水田関係の遺構と古墳時代の大規模な集落跡、桜ヶ丘キャンパスは縄文時代早期の住居跡と弥生時代中期の集落跡が確認された遺跡として広く知られている。また、入来牧場や学生寮も縄文時代の遺跡として確認されている。

埋蔵文化財調査室では、このような構内や附属施設に存在する遺跡の発掘を中心とした調査を施設整備事業に即して行い、そこから得られた埋蔵文化財の整理・報告書の作成および研究を行っている。また、その成果は埋蔵文化財調査室年報として刊行している。



河川跡から出土した弥生時代の木杭列
(地域共同研究センター建設地における発掘調査にて)

稲盛会館

(1) 利用目的

教育及び学術の交流の場として本学の職員その他関係者の利用に供することにより、本学の教育研究の進展に資するとともに、学術及び文化の向上に寄与することを目的としている。

(2) 施設の概要

会館は 地下1階～地上3階建、 建面積810.40㎡、延面積1,628.85㎡、ホール、ロビー、ホワイエ及び会議室からなる。

(3) 利用方法等

研究会、国際会議、講演会及び公開講座等に利用でき、利用希望者は事前に使用許可申請書を管理部局の工学部に提出し学長の許可を受ける。

会館は本学工学部出身の京セラ(株)名誉会長稲盛和夫氏から科学技術を中心とした知的交流を促進するための場として本学に寄贈されたもので、日本を代表する著名な建築家安藤忠雄氏の設計によるものである。



厚生施設等

保健管理センター

保健管理センター（以下センターと略）は、昭和47年に設置された。その設置目的は学生の心身の健康の保持増進である。

センターはこの趣旨に沿い、現在、以下の業務を行っている。

定期健康診断 特別健康診断並びに臨時健康診断 心理相談並びに学生相談 日常の一般診療 健康診断書発行 健康教育活動 その他

なお、これらの業務には、主として、センター専任の医師、看護婦、栄養士等があたっているが、この他にも、医学部及び同附属病院から、内科、神経精神科、放射線科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科の先生方が学医として、また、法文学部、教育学部からは心理学の先生方がカウンセラーとしてセンターに連れられ、それぞれ診療やカウンセリングにあたっている。



| 相談科名等 | 相談日 | (時間) |
|-------|----------|-----------|
| 内科 | 毎週月曜 | (9時～11時) |
| | " 水曜 | (14時～16時) |
| | " 水曜 | (9時～11時) |
| | " 木曜 | (14時～16時) |
| | " 金曜 | (9時～11時) |
| 心理相談 | 毎週火曜 | (9時～11時) |
| | " 水曜 | (9時～11時) |
| | " 金曜 | (9時～11時) |
| 整形外科 | 毎月第1・3木曜 | (14時～16時) |
| 眼科 | 毎月第1・3水曜 | (14時～16時) |
| 耳鼻咽喉科 | 毎月第2・4木曜 | (14時～16時) |
| 学生相談 | 毎月第1・3木曜 | (14時～16時) |
| | " 第2・4金曜 | (14時～16時) |

大学会館

(1) 利用目的

学生相互並びに学生と教職員間の人間関係を緊密にし、かつ、学生の教養を高め、豊かな人間性・社会性を涵養するための課外教育活動を盛んにし、またその厚生福祉に寄与することを目的にしている。

(2) 開館時間 午前9時から午後9時まで

(3) 休館日 日曜日・祝日及び

12月29日から翌年1月3日まで



1号館

| 建物名称 | 階別 | 施設名 | 用途等 |
|-----------------|----|----------|---|
| 1号館 (1,409㎡) | 1 | 軽食堂 | 喫茶、食事 (64席) |
| | | 理髪室 | 理髪 (4台) |
| | 2 | 共用談話室 | 休憩、談話 (52人) |
| | | 音楽鑑賞室 | 音楽鑑賞 (56人) |
| | | 会議室(1・2) | 会議、研究会等 (42人・20人) |
| | 3 | 和室(1～5) | 会議及び邦楽、茶道、華道等の練習 8帖 2室 12帖 2室 45.5帖 1室 |
| | 4 | ホール | 音楽会、講演会、研究会等 (300人) |
| 音楽練習室(1・2) | | 音楽等練習 | |
| 2号館 (779㎡) | 1 | 小集会室 | 会議、展示会等 |
| | 2 | サークル連絡室 | サークル活動 |
| 3号館 (422㎡) | 1 | 大集会室 | 音楽会、講演会、映画会、研究会等 (500人) |
| 4号館 (448㎡) | 1 | 厚生センター | 書籍、日用品等の購売 |

国際交流会館

国際交流会館は、本学の外国人留学生及び本学において教育・研究に従事する外国人研究者に対し居住の場を提供し、国際交流の促進に資することを目的に1号館が昭和54年4月に2号館が平成6年10月に設置された。

平成12年5月1日現在、21ヶ国59名の外国人留学生、外国人研究者が居住している。



国際交流会館

(1号館)

| 室名 | 面積(㎡) | 室数 |
|------|-------|-----|
| 単身室 | 12 | 35室 |
| 夫婦室 | 39 | 3室 |
| 家族室 | 59 | 2室 |
| 主事室 | 14 | |
| 事務室 | 16 | |
| 談話室 | 47 | |
| 娯楽室 | 94 | |
| 和室 | 25 | |
| 補食室 | 5~12 | 4室 |
| 浴室 | 3~8 | 4室 |
| 洗濯室 | 10 | 4室 |
| 管理人室 | 52 | |
| 倉庫 | 7 | |

備考：延面積 1,430㎡ 建物構造 RC4

(2号館)

| 室名 | 面積(㎡) | 室数 |
|----------|-------|-----|
| 単身室 | 12 | 30室 |
| 夫婦室 | 40 | 6室 |
| 家族室 | 58 | 4室 |
| 補食室 | 11 | 4室 |
| 洗濯・シャワー室 | 11 | 4室 |
| ラウンジコーナー | 39 | |
| 談話コーナー | 14 | |

備考：延面積 1,259㎡ 建物構造 R4

体育施設

陸上競技場、球技場などの体育施設は、正課はもちろんのこと52団体、1,000余名の体育系サークル(課外活動)に利用されている。課外活動は、大学教育における人間形成の上で必要不可欠であり、各キャンパス毎に各施設を有している。特に郡元キャンパスの陸上競技場、球技場、テニスコートなどには夜間照明が設置され、午後9時まで使用できる。



サークル活動

| 施設名 | 所在地 | 種目 |
|-------------|-------|----------------------------------|
| 陸上競技場(400m) | 郡元地区 | 陸上競技 |
| 球技場 | " | サッカー・ラグビー・ハンドボール |
| " | 桜ヶ丘地区 | 準硬式野球・サッカー・ラグビー |
| 野球場 | " | 硬式野球 |
| グラウンド | " | 準硬式野球 |
| テニスコート | 郡元地区 | 硬式庭球・ソフトテニス |
| " | 桜ヶ丘地区 | 硬式庭球・ソフトテニス |
| 第1体育館 | 郡元地区 | 体操・バスケットボール・バレーボール・バドミントン・ハンドボール |
| 第2体育館 | " | バスケットボール・バレーボール・バドミントン・卓球・トレーニング |
| 桜ヶ丘体育館 | 桜ヶ丘地区 | 卓球・バレーボール・バスケットボール・バドミントン・ハンドボール |
| 武道館 | 郡元地区 | 柔道・剣道 |
| 課外活動施設 | 桜ヶ丘地区 | 柔道・剣道・空手道 |
| 馬房(厩舎) | 郡元地区 | 馬術 |
| 室内プール(50m) | " | 水泳 |
| 平川艇庫 | 平川町海岸 | ヨット |
| 磯艇庫 | 磯海岸 | ボート |
| 鴨池艇庫 | 鴨池臨海地 | カッター |
| 弓道場 | 郡元地区 | 弓道 |
| " | 桜ヶ丘地区 | 弓道 |

食堂



| 食堂名 | 延面積 | 席数 | 所在地 |
|--------|--------|------|--------------|
| 中央食堂 | 1,347㎡ | 520席 | 統合地区(郡元地区) |
| 郡元南食堂 | 882㎡ | 174席 | 教育学部内(") |
| 桜ヶ丘会館 | 417㎡ | 160席 | 医学部内(桜ヶ丘地区) |
| 水産学部食堂 | 350㎡ | 128席 | 水産学部内(下荒田地区) |

学生寮



| 区分 | 建物 | 延面積(㎡) | 収容定員(名) |
|-------------|-------|--------|---------|
| A棟 | 鉄筋5階建 | 1,412 | 76 |
| B棟 | " | 1,568 | 92 |
| C棟(対岳寮・黒潮寮) | 鉄筋2階建 | 629 | 64 |
| 女子寮(清明寮) | 鉄筋4階建 | 1,600 | 112 |
| 共用棟 | 鉄筋1階建 | 317 | |
| 桜ヶ丘寄宿舍 | 鉄筋5階建 | 2,696 | 99 |
| 合計 | | 8,222 | 443 |

全学合同研究プロジェクト

1. 大地・食・人間の健康を保全する環境革命への試行－鹿児島県をケーススタディとして－（平成9年度～）

本研究プロジェクトは、食糧、健康、地球環境の諸問題を環境保全型農水産業を軸として解決しようとするものである。戦後の食糧不足の時代には、食物の量のみが求められていたために、作物生産に多量の化学肥料と農薬が使用されてきたが、昨今は「食と健康」に対する国民の関心が急速に高まり、残留農薬等の健康への害が問題視されるようになった。

過剰な農薬や化学肥料の施用を抑え、安全で健康な作物をつくるためには、有機質肥料を施用し、地力のある土壌をつくる必要があるが、昨今は地力が低下し、残留農薬等による土壌や作物の汚染が進行している。また、食生活の西欧化により巨大化した畜産業からは膨大な畜産廃棄物が生じ、一方では、沿岸域における種々の高級魚の大量養殖が深刻な海洋汚染を引き起こし、さらに工業分野においても多量の環境汚染物質が廃棄され、人類の生存を脅かしている。特に鹿児島県では、畜産廃棄物による環境汚染や茶畑での過剰施肥が問題になっている。

そこで、鹿児島大学を構成する全学部及び医療技術短期大学部等全学を挙げての総合的研究を実施した。内容は、大地の健康と持続的食糧生産、食物と健康、地球環境と人間生活、の3課題について、各課題の研究者が相互に補完し合いながら総合的な研究成果を上げることを目指している。

平成9年度に開始した本研究プロジェクトには、平成10年度以降、学内外の研究者や技術者約140名が約60課題に参加している。地域の問題を解決し、得られた成果を社会へ還元するために、市民向けシンポジウムと研究成果発表会を毎年行っており、平成11年度には地域住民との連携をさらに深めるための新企画として、奄美大島で「水問題 in 奄美」、屋久島で「屋久島の森林と水」のミニシンポジウムを、鹿児島市で「合鴨農法ワークショップ」を開催した。平成11年度研究成果報告会では、全課題の研究成果をパネル展示と口頭で発表した。これらのミニシンポジウム、ワークショップ、研究成果報告会には、研究者、農水産業関係者、消費者、一般市民の多数参加と積極的な発言があり、本研究プロジェクトに対する地域の人々の深い関心が示された。

本研究プロジェクトにおいては学部を越えた研究者が協力して地域の課題に取り組み、次第に成果が上がっており、得られた研究成果の一部は既に地域社会に還元されている。今後は、鹿児島から全世界への発信も期待されている。

2. 新しい関係性を求めて－コミュニケーションの諸相－（平成10年度～）

このプロジェクトのテーマを「新しい関係性を求めて - コミュニケーションの諸相 - 」と設定したのは、現代社会に顕著になっている関係性の希薄化ないしはその崩壊という現象に対して、何らかの解決策を講じえないのかという発想に基づいている。

その際に、人間関係という問題設定をとらずに、「関係性」としたのは、この社会現象が単に人と人との関係のみならず、人と各種集団との間、集団と集団との間、それに人と物や事との間にも起こっているからである。従来は、たとえば人と人との関係性の崩壊は、その両者が同一の広義の文化的基盤に立っているという前提の下に、意思の疎通の問題とか心理的葛藤の問題としてむしろ個別的に論じられてきた。また、人と社会との関係性の希薄化の現象も疎外という概念で論じられてきた。しかしこれらの現象の起因するところはもっと根深いところにあり、かつその原因の追求がかならずしも従来の方法のみでは可能でなくなっている。

この疑問に対する解答を予測させてくれるのがコミュニケーションという概念である。ここではコミュニケーションという概念を、一般的に使われる意思の疎通とかマスコミとかの狭義を含みこみながら、物や事という情報の移動に伴う情報の平均化の意味に使うが、このプロジェクトでコミュニケーションという概念をとりあげたのは、現代社会に顕在化している関係性の崩壊現象の真の原因はコミュニケーションの不成立にあるのではないかという予測が成りたつからである。

そこでコミュニケーションの不成立の原因とそれに対する解決策を追求するために、コミュニケーション成立の要件としてのメッセージ・コード・メディアの三者を、個別的にあるいは総合的に分析していくことから作業を始める。その意味でこの三者はいわば作業仮説であり、コミュニケーション行為におけるメッセージの発信点と到着点との間で、より効果的にコミュニケーションが成立するための、メッセージ・コード・メディアの特性の追求がまずなされなければならないことになる。としても、このプロジェクトの研究対象は広範囲に及ぶために、この三者の作業仮説はそれぞれの研究分野で柔軟に応用されていくことが必要である。

以上のような観点から、コミュニケーションの諸相の分析を通じて、新しい関係性の構築に対して示唆を与えようとするのがこのプロジェクトの主旨である。

3. <環境プロジェクト> 開放系／半開放系のゴミ処理と地域資源循環型社会の構築に関する研究（平成11年度～）

教育と知的情報生産の場としての大学からは、その活動の結果として大量の廃棄物（生ゴミ、排泄物、紙、使用済み薬品、研究機器廃品等）が発生し、それらは地域に排出されている。生態系としての大学は開放系である。他方、鹿児島県は、離島を多く有し、島に特徴的な半解放系の物質とエネルギーの循環が見られ、島に特有のごみ問題が発生している。特に世界自然遺産に指定された屋久島は自然と共生を進めながら、社会的展開をはかることを目指すエコタウンプロジェクトが計画されている。それはごみの再利用資源化のみならず、農／林／水産などの島での生産体系と生活環境が深く関わり、自然環境に調和したエコタウンの実現には解決しなければならない多くの技術的問題だけでなく、住民意識の問題も存在する。

現在、「生ゴミ」をモデルケースにしての、ゴミ処理についての複数の技術の比較を行い、現実的で優れた処理技術システムの開発を追求しつつある。また、ごみ処理についての人間行動学的な調査を進め、有効な処理方法の確立の基礎資料とする。さらに、ごみの再利用（熱源としてのガス、発電、有機肥料、建築素材等）についての研究を行う。

このごみ処理問題を手がかりとして、屋久島でのヒトと自然が共存できるような生産システムの在り方を探り、地域資源循環型の社会システム＝エコタウンの構築の可能性を探る。

本プロジェクトで導入し、使用されている生ゴミ処理機器は長期にわたり使用可能なもので、研究終了後はしかるべき組織が運用を受け継ぎ、鹿児島大学のエコキャンパス化の基盤の一つになることが期待される。

4. 地域学の創造－新しい鹿児島学－（平成12年度～）

本プロジェクトのテーマは、「地域学の創造 - 新しい鹿児島学 - 」である。これまで、日本における地方国立大学は、研究・教育という側面を重視し、人材育成という点から間接的に地域社会との関わりを持ってきたが、直接的に地域貢献に乗り出すことは概して少なかった。すなわち、日本に於ける地方国立大学は、知的資源の貯蔵庫としての役割を持ちながら、地域への還元という点では不十分な成果しか挙げてこなかったのである。これは、地域にとっても、地域に生きる大学にとっても不幸なことであった。現在、地方国立大学に対しては、こうした点への取り組みの必要性が社会的に強く求められるようになってきている。鹿児島大学においては、こうした認識に基づき、平成12年度、田中弘允学長の発案に基づき、大学を地域社会再構築の核とすべく、全学プロジェクト「地域学の創造 - 新しい鹿児島学 - 」を立ち上げることになった。現在、地域社会は、環境問題、福祉問題、財政問題など様々な地域問題に直面している。大学はその性格上、目前の問題を即座に解決する能力には乏しい。しかし、その蓄積した知的資源と総合大学としての学際性という可能性、そして利害にとらわれないという立場を十分に活用するならば、中長期的な観点に立って、来るべき環境共生型社会としての地域社会の将来像を構築することは可能である。

以上のような認識のもとに、今回、鹿児島大学における地域研究の各専門家に呼びかけ、環境と共生をキーワードとして、学問の壁を超えた協力体制を組み、過去を展望し、現在を読み解き、未来を志向する地域学として全学プロジェクト「新しい鹿児島学」を立ち上げるものである。

本プロジェクトにおいては、全体を、14のグループに分けて研究を進める。

社会のレベル：（1）鹿児島県の環境問題 （2）鹿児島県の経済と環境 （3）鹿児島県のマルチメディア環境。

自然のレベル：（4）鹿児島県の自然環境 （5）鹿児島県の地域農業と食品 （6）鹿児島県の都市景観と住生活。

文化のレベル：（7）近世薩摩の学術と玉里島津家資料 （8）鹿児島県の古代と考古学 （9）鹿児島県の言語と文学
（10）鹿児島県の国際交流。

人間のレベル：（11）鹿児島県の地域医療 （12）鹿児島県の精神風土 （13）鹿児島県の生涯体育・スポーツ （14）鹿児島県の教育。

学生部
 学 生 部 長 萬 田 正 治
 学 生 部 次 長 吉 田 平 亨
 教 務 課 長 石 橋 亨
 学 生 課 長 竹 内 可 吉
 入 試 課 長 溝 口 輝
 留 学 生 課 長 篠 崎 重 一
 保健管理センター
 所 長 前 田 芳 夫
 地域共同研究センター
 セ ン タ ー 長 幡 手 泰 雄
 総合情報処理センター
 セ ン タ ー 長 皆 川 洋 一
 遺伝子実験施設
 施 設 長 林 満
 多島圏研究センター
 セ ン タ ー 長 野 田 伸 一
 アイソトープ総合センター
 セ ン タ ー 長 中 西 喜 彦
 留学生センター
 セ ン タ ー 長 土 田 充 義
 附属図書館
 附 属 図 書 館 長 中 山 右 尚
 桜ヶ丘分館 長 小 椋 正
 水産学部分館 長 尾 上 義 夫
 事 務 部 長 香 川 一 郎
 情 報 管 理 課 長 蓑 原 和 秀
 情 報 サ ー ビ ス 課 長 河 野 雅 史
 法文学部
 法 文 学 部 長 辰 村 吉 康
 事 務 長 満 浩 一
 教育学部
 教 育 学 部 長 坂 尾 隆
 附 属 小 学 校 長 植 村 哲 郎
 附 属 中 学 校 長 松 田 君 彦
 附 属 養 護 学 校 長 厚 東 孝 治
 附 属 幼 稚 園 長 植 村 哲 郎
 附属教育実践研究指導センター長 木 下 紀 正
 事 務 長 福 地 尚 武
 理学部
 理 学 部 長 井 上 政 義
 附 属 南 西 島 弧 地 震 火 山 観 測 所 長 角 田 寿 喜
 事 務 長 岩 元 秀 樹
 医学部
 医 学 部 長 佐 伯 武 頼
 附 属 腫 瘍 研 究 施 設 長 秋 山 伸 一
 附 属 動 物 実 験 施 設 長 吉 田 浩 己
 附属難治性ウイルス疾患研究センター長 栄 鶴 義 人

事 務 部 長 岩 尾 忠 春
 事 務 部 次 長 梨 子 田 邦 彦
 総 務 課 長 立 石 俊 昭
 管 理 課 長 宮 城 盛 孝
 学 務 課 長 赤 松 一 良
 医 事 課 長 荒 牧 陸 雄
 附 属 病 院 長 宮 田 晃 一 郎
 薬 劑 部 長 山 田 勝 士
 看 護 部 長 川 口 マ ス
 歯学部
 歯 学 部 長 大 工 原 恭
 事 務 部 長 久 本 純 夫
 総 務 課 長 東 山 誠 一
 業 務 課 長 友 田 政 文
 附 属 病 院 長 伊 藤 學 而
 薬 劑 部 長 松 本 哲 雄
 看 護 部 長 坂 井 登 志 子
 工学部
 工 学 部 長 赤 坂 裕
 事 務 長 大 園 健 三
 農学部
 農 学 部 長 西 中 川 駿
 附 属 演 習 林 長 吉 良 今 朝 芳
 附 属 家 畜 病 院 長 坂 本 紘 正
 事 務 長 流 林 晃 満
 附 属 農 場 長 林 正 満
 水産学部
 水 産 学 部 長 上 田 耕 平
 附 属 練 習 船 か ご し ま 丸 船 長 益 満 侃
 附 属 練 習 船 敬 天 丸 船 長 嶋 田 起 宜
 附 属 海 洋 資 源 環 境 教 育 研 究 セ ン タ ー 長 松 岡 達 郎
 事 務 長 竹 下 禮 躋
 大学院連合農学研究科
 大 学 院 連 合 農 学 研 究 科 長 宮 内 信 文
 大学院
 人 文 社 会 科 学 研 究 科 長 辰 村 吉 康
 法 学 研 究 科 長 辰 村 吉 吉
 人 文 科 学 研 究 科 長 前 田 毅
 教 育 学 研 究 科 長 坂 尾 隆
 理 学 研 究 科 長 井 上 政 義
 医 学 研 究 科 長 佐 伯 武 頼
 歯 学 研 究 科 長 大 工 原 恭
 理 工 学 研 究 科 長 赤 坂 裕
 農 学 研 究 科 長 西 中 川 駿
 水 産 学 研 究 科 長 上 田 耕 平
 医療技術短期大学部
 学 部 長 田 中 弘 允
 事 務 長 銚 之 原 昌 雄
 石 塚 勝

職員の現員

現 員

(平成12年5月1日現在)

| 部 局 | 職 別 | 学 長 | 教 授 | 助教授 | 講 師 | 助 手 | 教 諭 | 小 計 | 事務官 技官等 | 合 計 |
|-------------------|-----|-----|--------------|--------------|-------------|--------------|-----|----------------|------------|----------------|
| 学 務 局 | 学 長 | 1 | | | | | | 1 | | 1 |
| 学 生 部 | | | | | | | | | 136 | 136 |
| 附 属 函 書 館 | | | | | | | | | 29 | 29 |
| 桜ヶ丘分館 | | | | | | | | | 21 | 21 |
| 水産学部分館 | | | | | | | | | 4 | 4 |
| 保健管理センター | | | 1 | 1 | | | | 2 | 1 | 3 |
| 地域共同研究センター | | | | 1 | | | | 1 | | 1 |
| 総合情報処理センター | | | | 1 | | | | 1 | 3 | 4 |
| 遺伝子実験施設 | | | | 1 | | 1 | | 2 | | 2 |
| 多島圏研究センター | | 3 | | | | | | 3 | | 3 |
| アイソトープ総合センター | | | | 1 | | | | 1 | | 1 |
| 留学生センター | | | | 1 | | | | 1 | | 1 |
| 法 文 学 部 | | | 51 | 56 | 5 | 6 | | 118 | 14 | 132 |
| 教 育 学 部 | | | 61 | 44 | 4 | | | 109 | 30 | 139 |
| 附属教育実践研究指導センター | | | 1 | | | | | 1 | | 1 |
| 附 属 小 学 校 | | | | | | | 36 | 36 | 5 | 41 |
| 附 属 中 学 校 | | | | | | | 31 | 31 | 2 | 33 |
| 附 属 養 護 学 校 | | | | | | | 27 | 27 | 3 | 30 |
| 附 属 幼 稚 園 | | | | | | | 4 | 4 | | 4 |
| 理 学 部 | | | 40 | 31 | 4 | 12 | | 87 | 17 | 104 |
| 附属南西島弧地震火山観測所 | | | | 1 | | 1 | | 2 | 1 | 3 |
| 医 学 部 | | | 59 | 31 | 23 | 74 | | 187 | 46 | 233 |
| 附属腫瘍研究施設 | | | 1 | | | 3 | | 4 | | 4 |
| 附属動物実験施設 | | | | 1 | | 1 | | 2 | 3 | 5 |
| 附属難治性ウイルス疾患研究センター | | | 3 | 2 | | | | 5 | | 5 |
| 附 属 病 院 | | | 2 | 5 | 30 | 68 | | 105 | 509 | 614 |
| 歯 学 部 | | | 17 | 14 | 4 | 64 | | 99 | 46 | 145 |
| 附 属 病 院 | | | 1 | 1 | 13 | 33 | | 48 | 89 | 137 |
| 工 学 部 | | | 50 | 47 | 2 | 34 | | 133 | 54 | 187 |
| 農 学 部 | | | 46 | 33 | 12 | 17 | | 108 | 28 | 136 |
| 附 属 農 場 | | | | 1 | | 1 | | 2 | 22 | 24 |
| 附 属 演 習 林 | | | | 2 | | | | 2 | 9 | 11 |
| 附 属 家 畜 病 院 | | | 1 | | | | | 1 | 2 | 3 |
| 水 産 学 部 | | | 21 | 14 | 6 | 4 | | 45 | 18 | 63 |
| 附属練習船かごしま丸 | | | | 1 | 1 | 2 | | 4 | 24 | 28 |
| 附属練習船敬天丸 | | | 1 | 1 | 1 | 1 | | 4 | 17 | 21 |
| 実 習 船 南 星 丸 | | | | | | 1 | | 1 | 5 | 6 |
| 附属海洋資源環境教育研究センター | | | | 1 | | 1 | | 2 | 5 | 7 |
| 大学院連合農学研究科 | | | 1 (114) | (59) | | (26) | | 1 (199) | | 1 (199) |
| 医療技術短期大学部 | | | (23) | (9) | (6) | (18) | | (56) | 9 | 9 (56) |
| 計 | | 1 | 360 (137) | 292 (68) | 105 (6) | 324 (44) | 98 | 1,180 (255) | 1,154 | 2,334 (255) |

(注) 1. () 書きは、兼任、併任教官数を外数で示す。

学生の定員・現員 平成12年5月1日現在

学 部

| 学部名 | 学 科 ・ 課 程 | 入学 定員 | 3年次編 入学定員 | 現 員 | | | | | | |
|------|------------------|----------|--------------|------------|------------|------------|------------|----------|------------|--------------|
| | | | | 1 年 | 2 年 | 3 年 | 4 年 | 5 年 | 6 年 | 計 |
| 法文学部 | 法 政 策 学 科 | 125 | 10 | 128(45) | 138(56) | 143(49) | 146(67) | | | 555(217) |
| | 経 済 情 報 学 科 | 145 | | 158(83) | 149(59) | 163(52) | 163(55) | | | 633(249) |
| | 人 文 学 科 | 155 | | 168(116) | 181(125) | 169(121) | 209(140) | | | 727(502) |
| | 法 学 科 | | | - | - | - | 57(13) | | | 57(13) |
| | 経 済 学 科 | | | - | - | - | 55(9) | | | 55(9) |
| | 小 計 | 425 | 10 | 454(244) | 468(240) | 475(222) | 630(284) | | | 2,027(990) |
| 教育学部 | 学校教育教員養成課程 | 225 | 10 | 239(125) | 237(120) | 264(136) | 279(143) | | | 1,019(524) |
| | 養護学校教員養成課程 | 15 | | 15(12) | 13(13) | 20(16) | 21(14) | | | 69(55) |
| | 生涯教育総合課程 | 35 | | 39(27) | 39(25) | 42(31) | 43(23) | | | 163(106) |
| | 小学校教員養成課程 | | | - | - | - | 53(14) | | | 53(14) |
| | 中学校教員養成課程 | | | - | - | - | 36(9) | | | 36(9) |
| | 特別教科(保健体育)教員養成課程 | | | - | - | - | 13(0) | | | 13(0) |
| | 小 計 | 275 | | 293(164) | 289(158) | 326(183) | 445(203) | | | 1,353(708) |
| 理学部 | 数 理 情 報 学 科 | 40 | 10 | 44(10) | 46(9) | 67(13) | 25(4) | | | 182(36) |
| | 物 理 科 学 科 | 45 | | 50(14) | 51(4) | 65(10) | 32(4) | | | 198(32) |
| | 生 命 化 学 科 | 50 | | 55(24) | 53(19) | 60(34) | 44(20) | | | 212(97) |
| | 地 球 環 境 科 学 科 | 50 | | 53(17) | 54(20) | 58(17) | 39(20) | | | 204(74) |
| | 数 学 科 | | | - | - | 10(2) | 4(0) | | | 14(2) |
| | 物 理 学 科 | | | - | - | 22(0) | 13(1) | | | 35(1) |
| | 化 学 科 | | | - | - | 5(0) | 4(0) | | | 9(0) |
| | 地 学 科 | | | - | - | 3(0) | 8(0) | | | 11(0) |
| | 生 物 学 科 | | | - | - | - | 2(1) | | | 2(1) |
| 小 計 | 185 | 202(65) | 204(52) | 290(76) | 171(50) | | | 867(243) | | |
| 医学部 | 医 学 科 | 85 | 10 | 86(26) | 89(31) | 123(34) | 119(33) | 105(30) | 120(29) | 642(183) |
| | 保 健 学 科 | 120 | | 120(102) | 119(101) | - | - | | | 239(203) |
| | 小 計 | 205 | | 206(128) | 208(132) | 123(34) | 119(33) | 105(30) | 120(29) | 881(386) |
| 歯学部 | 歯 学 科 | 60 | 10 | 60(22) | 68(22) | 75(14) | 67(22) | 70(15) | 58(18) | 398(113) |
| 工学部 | 機 械 工 学 科 | 100 | | 100(3) | 99(0) | 184(2) | 87(9) | | | 470(14) |
| | 電 気 電 子 工 学 科 | 80 | | 115(6) | 101(5) | 115(1) | 83(2) | | | 414(14) |
| | 建 築 学 科 | 60 | | 65(12) | 63(14) | 105(10) | 69(10) | | | 302(46) |
| | 応 用 化 学 工 学 科 | 65 | | 68(20) | 66(12) | 100(16) | 69(12) | | | 303(60) |
| | 海 洋 土 木 工 学 科 | 50 | | 50(4) | 50(1) | 79(2) | 50(3) | | | 229(10) |
| | 情 報 工 学 科 | 60 | | 65(4) | 62(7) | 94(8) | 53(5) | | | 274(24) |
| | 生 体 工 学 科 | 60 | | 66(15) | 83(25) | 57(11) | 44(4) | | | 250(55) |
| 小 計 | 475 | 529(64) | | 524(64) | 734(50) | 455(45) | | | 2,242(223) | |
| 農学部 | 生 物 生 産 学 科 | 80 | 10 | 85(45) | 92(45) | 84(33) | 126(53) | | | 387(176) |
| | 生 物 資 源 化 学 科 | 60 | | 65(29) | 68(31) | 71(41) | 71(24) | | | 275(125) |
| | 生 物 環 境 学 科 | 65 | | 70(26) | 67(20) | 72(26) | 69(21) | | | 278(93) |
| | 獣 医 学 科 | 30 | | 32(9) | 33(18) | 33(19) | 31(14) | 29(16) | 38(13) | 196(89) |
| | 小 計 | 235 | | 252(109) | 260(114) | 260(119) | 297(112) | 29(16) | 38(13) | 1,136(483) |
| 水産学部 | 水 産 学 科 | 130 | 10 | 130(58) | 165(46) | 121(31) | 164(46) | | | 580(181) |
| | 水 産 教 員 養 成 課 程 | 10 | | 11(3) | 12(6) | 11(2) | 9(3) | | | 43(14) |
| | 小 計 | 140 | | 141(61) | 177(52) | 132(33) | 173(49) | | | 623(195) |
| 計 | | 2,000 | 20 | 2,137(857) | 2,198(834) | 2,415(731) | 2,357(798) | 204(61) | 216(60) | 9,527(3,341) |

(注) 1. () は女子を内数で示す。 2. 現員には外国人留学生を含む。

大学院

| 研究科名 | 入学定員 | 現 員 | | | | | | | | |
|-----------------|------|-------------|----------|----------|-------------|----------|----------|---------|----------|------------|
| | | 修士課程 (博士前期) | | | 博士課程 (博士後期) | | | | | 合計 |
| | | 1年 | 2年 | 計 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 計 | |
| 人文社会科学研究科 | 38 | 33(9) | 54(20) | 87(29) | | | | | | 87(29) |
| 法学研究科 | | | 1(0) | 1(0) | | | | | | 1(0) |
| 人文科学研究科 | | | 4(3) | 4(3) | | | | | | 4(3) |
| 教育学研究科 | 35 | 44(23) | 45(17) | 89(40) | | | | | | 89(40) |
| 医学研究科 | 58 | | | | 63(10) | 34(8) | 38(8) | 89(20) | 224(46) | 224(46) |
| 歯学研究科 | 18 | | | | 6(0) | 13(2) | 7(3) | 6(1) | 32(6) | 32(6) |
| 理工学研究科 | 190 | 248(38) | 228(26) | 476(64) | | | | | | 476(64) |
| | 22 | | | | 45(8) | 33(4) | 42(3) | | 120(15) | 120(15) |
| 農学研究科 | 68 | 57(22) | 52(15) | 109(37) | | | | | | 109(37) |
| 水産学研究科 | 32 | 37(11) | 50(11) | 87(22) | | | | | | 87(22) |
| 連合農学研究科 | 22 | | | | 55(11) | 42(11) | 74(18) | | 171(40) | 171(40) |
| 計 | 483 | 419(103) | 434(92) | 853(195) | 169(29) | 122(25) | 161(32) | 95(21) | 547(107) | 1,400(302) |
| 山口大学大学院連合獣医学研究科 | 12 | | | | 2(0) | 2(0) | 1(0) | 5(2) | 10(2) | 10(2) |

- (注) 1. () は女子を内数で示す。
 2. 現員には外国人留学生を含む。
 3. 連合農学研究科は鹿児島・佐賀・宮崎・琉球の4大学の構成によるものである。
 4. 山口大学大学院連合獣医学研究科の現員数は、鹿児島大学(指導教官)に属する学生数である。

社会人在学生の職業別内訳

| 研究科名 | 職業別 | 学校教育 | | | 公務員 (教員を除く) | | | 民間企業等 | 合計 |
|-----------------|------|------|----|----|-------------|----|----|-------|-----|
| | | 公立 | 私立 | 計 | 国 | 地方 | 計 | | |
| 人文社会科学研究科 | | | | | 3 | 2 | 5 | 9 | 14 |
| 法学研究科 | | 1 | | 1 | | | | | 1 |
| 教育学研究科 | | 15 | | 15 | | | | | 15 |
| 医学研究科 | | | | | 24 | 12 | 36 | 26 | 62 |
| 歯学研究科 | | 1 | | 1 | | | | 1 | 2 |
| 理工学研究科 | 博士前期 | 3 | | 3 | 2 | 2 | 4 | 1 | 8 |
| | 博士後期 | 13 | 9 | 22 | | 3 | 3 | 19 | 44 |
| 農学研究科 | | | | | | | | | 0 |
| 水産学研究科 | | | | | | | | 5 | 5 |
| 連合農学研究科 | | 1 | 5 | 6 | 2 | 5 | 7 | 2 | 15 |
| 計 | | 34 | 14 | 48 | 31 | 24 | 55 | 63 | 166 |
| 山口大学大学院連合獣医学研究科 | | | | | | | | 3 | 3 |

(注) 1. 上記「・大学院」の院生数(現員)のうち社会人在学生を職業別に計上した。

専攻科

| 専攻科名 | 入学定員 | 現 員 |
|-------|------|-------|
| 水産専攻科 | 40 | 9(6) |

(注) 1. () は女子を内数で示す。

医療技術短期大学部

| 学 科 等 名 | 入 学 定 員 | 現 員 | | | 合 計 |
|--------------|---------|--------|-----|----------|----------|
| | | 1 年 | 2 年 | 3 年 | |
| 看 護 学 科 | | - | - | 81(3) | 81(3) |
| 理 学 療 法 学 科 | | - | - | 19(8) | 19(8) |
| 作 業 療 法 学 科 | | - | - | 22(7) | 22(7) |
| 専攻科助産学特別専攻 | 20 | 20(0) | | | 20(0) |
| 専攻科地域看護学特別専攻 | 20 | 21(0) | | | 21(0) |
| 計 | 40 | 41(0) | | 122(18) | 163(18) |

(注) 1. () は男子を内数で示す。

教育学部附属学校

| 学 校 名 | 学級区分 | 入学定員 | 現 員 | | | | | | | 学 級 数 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|---------------------------|
| | | | 1 年 | 2 年 | 3 年 | 4 年 | 5 年 | 6 年 | 計 | |
| 附属小学校 | 普通学級 | 160 | 158 | 160 | 159 | 157 | 164 | 165 | 963 | 各学年4学級 計24学級 |
| | 複式学級 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | | | 40 | 1・2年で1学級 3・4年で1学級 計2学級 |
| | 計 | 170 | 168 | 170 | 169 | 167 | 164 | 165 | 1,003 | |

| 学 校 名 | 学級区分 | 入学定員 | 現 員 | | | | 学 級 数 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|-----|--------------|
| | | | 1 年 | 2 年 | 3 年 | 計 | |
| 附属中学校 | 普通学級 | 200 | 200 | 199 | 200 | 599 | 各学年5学級 計15学級 |

| 学 校 名 | 学級区分 | 入学定員 | 現 員 | | | | | | | 学 級 数 |
|--------|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|--|
| | | | 1 年 | 2 年 | 3 年 | 4 年 | 5 年 | 6 年 | 計 | |
| 附属養護学校 | 小学部 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 18 | 1学年・2学年で1学級 3学年・4学年で1学級 5学年・6学年で1学級 計3学級 |
| | 中学部 | 6 | 6 | 5 | 6 | | | | 17 | 各学年1学級 計3学級 |
| | 高等部 | 8 | 8 | 8 | 8 | | | | 24 | 各学年1学級 計3学級 |

| 学 校 名 | 入園定員 | 現 員 | | | | 学 級 数 |
|-------|------|------|------|------|----|--------------------------|
| | | 3 才児 | 4 才児 | 5 才児 | 計 | |
| 附属幼稚園 | 20 | 19 | | | 19 | 3才児、4才児、5才児 各1学級 計3学級 |
| | 35 | | 32 | 32 | 64 | |



附属中学校の総合的な学習（薩摩の食文化コース）



附属養護学校における校内宿泊学習

外国人留学生 平成12年5月1日現在

(出身国別) 42か国地域 301名

| 地域 | 国名 | 法文学部 | 教育学部 | 理学部 | 医学部 | 歯学部 | 工学部 | 農学部 | 水産学部 | 連合農学研究科 | 医療短大 | 合計 |
|------|-----------|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|------|---------|------|-----------|
| アフリカ | セネガル | | | 1 | | | | | | 1 | | 2 |
| | ギニア | | | | 1 | | 1 | | | | | 2 |
| | ケニア | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| | エジプト | | | | | | | | | 2 | | 2 |
| | タンザニア | | | | | | | | | 2 | | 2 |
| 中近東 | モロッコ | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| | サウジアラビア | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| | ヨルダン | | | | 1 | | | | 1 | | | 2 |
| アジア | インドネシア | | | | 1 | | | | | 2 | | 2 |
| | ネパール | | | | | | | | | 2 | | 2 |
| | バングラデシュ | | | | 1 | | 1 | | | 2 | | 2 |
| | スリランカ | | | | | | | 2 | | 16 | | 20 |
| | ミャンマー | | | | 1 | | 1 | 2 | 4 | 2 | | 8 |
| | タイ | | | | | | | | | 5 | | 5 |
| | ベトナム | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| | マレーシア | 1 | | 1 | | | 17 | 1 | | 3 | | 23 |
| | シンガポール | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| | インドネシア | 1 | | 3 | | | 5 | 2 | 3 | 21 | | 35 (23) |
| アジア | フィリピン | | | 4 | 1 | 1 | | | 1 | 4 | | 11 |
| | 中国 | 12 | 10 | 12 | 22 | | 29 | 12 | 2 | 20 | | 119 |
| | 台湾 | 1 | | | 2 | | | | 1 | 1 | | 5 |
| | 韓国 | | 7 | | | | 3 | | | 8 | | 18 |
| | モンゴル | | 1 | | 2 | | | | | | | 3 |
| 大洋州 | オーストラリア | 1 | | | 1 | | | | | | | 2 |
| | パプアニューギニア | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| | ソロモン諸島 | | | 1 | | | | | | | | 1 |
| | アメリカ合衆国 | | | | | | | 2 | 1 | | | 3 |
| アメリカ | メキシコ | | 1 | | | | | | 1 | 1 | | 3 |
| | アルゼンチン | | | | | | 1 | | 1 | | | 2 |
| | ブラジル | 1 | | | | 1 | | | 1 | | | 3 |
| | コロンビア | | | | 1 | | | | | | | 1 |
| | パナマ | | | 1 | | | 1 | | | | | 2 |
| カリブ | バルバドス | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| | ベネズエラ | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| | リマ | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| 欧州 | ギリシャ | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| | ポーランド | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| 合計 | | 19 | 19 | 23 | 34 | 3 | 64 | 23 | 20 | 96 (66) | | 301 (132) |

(注) 1. ○印内は内数で国費留学生

(経費種別) 42か国地域 301名

| 種別 | 大学院生 | 研究生 | 学部学生 | 科目等履修生 | 合計 |
|--------------|----------|---------|---------|--------|-----------|
| 国費留学生 | 126 (33) | 2 (2) | | 4 (3) | 132 (38) |
| マレーシア政府派遣 | | | 12 (5) | | 12 (5) |
| インドネシア政府派遣 | 2 | | | | 2 |
| タイ政府派遣 | 2 (2) | | | | 2 (2) |
| 鹿児島県費留学生 | | 3 (3) | | | 3 (3) |
| 短期推進制度による留学生 | | | | 9 (3) | 9 (3) |
| 私費留学生 | 99 (36) | 14 (6) | 27 (6) | 1 (1) | 141 (49) |
| 合計 | 229 (71) | 19 (11) | 39 (11) | 14 (7) | 301 (100) |

(注) 1. () 内は女子を内数で示す。

学部別

| 学部 | 国費 | | 外国政府派遣 | | 私費 | | 合計 |
|-----------|-------|-------|--------|------|--------|---------|---------|
| | 学部留学生 | 研究生等 | 学部留学生 | 研究生等 | 学部留学生 | 研究生等 | |
| 法文学部 | | 2 (2) | | | 5 (1) | 6 (4) | 13 (7) |
| 教育学部 | | 4 (3) | | | | 3 (1) | 7 (4) |
| 理学部 | | | | | 8 | 3 (1) | 11 (1) |
| 医学部 | | | | | 5 (3) | 3 (2) | 8 (5) |
| 工学部 | | | 12 (5) | | 4 | 5 (2) | 21 (7) |
| 農学部 | | | | | 4 (2) | 4 (2) | 8 (4) |
| 水産学部 | | | | | 1 | 3 (1) | 4 (1) |
| 医療技術短期大学部 | | | | | | | |
| 合計 | | 6 (5) | 12 (5) | | 27 (6) | 27 (13) | 72 (29) |

(注) 1. () は女子を内数で示す。

大学院別

| 研究科 | 国費 | | 外国政府派遣 | | 私費 | | 合計 |
|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|
| | 修士・博士前期 | 博士・博士後期 | 修士・博士前期 | 博士・博士後期 | 修士・博士前期 | 博士・博士後期 | |
| 人文社会科学研究科 | 1 (1) | | | | 5 (2) | | 6 (3) |
| 教育学研究科 | 3 (2) | | | | 9 (7) | | 12 (9) |
| 医学研究科 | | 9 (4) | | | | 17 (8) | 26 (12) |
| 歯学研究科 | | 3 (1) | | | | | 3 (1) |
| 理工学研究科 | 10 (2) | 14 (4) | | | 17 (4) | 14 (4) | 55 (14) |
| 農学研究科 | 7 (1) | | | | 8 (1) | | 15 (2) |
| 水産学研究科 | 13 (3) | | 1 | | 2 (1) | | 16 (4) |
| 連合農学研究科 | | 66 (15) | | 4 (2) | | 26 (9) | 96 (26) |
| 合計 | 34 (9) | 92 (24) | 1 | 4 (2) | 41 (15) | 57 (21) | 229 (71) |

(注) 1. () は女子を内数で示す。



外国人留学生新入生歓迎パーティー

入学状況 平成12年5月1日現在

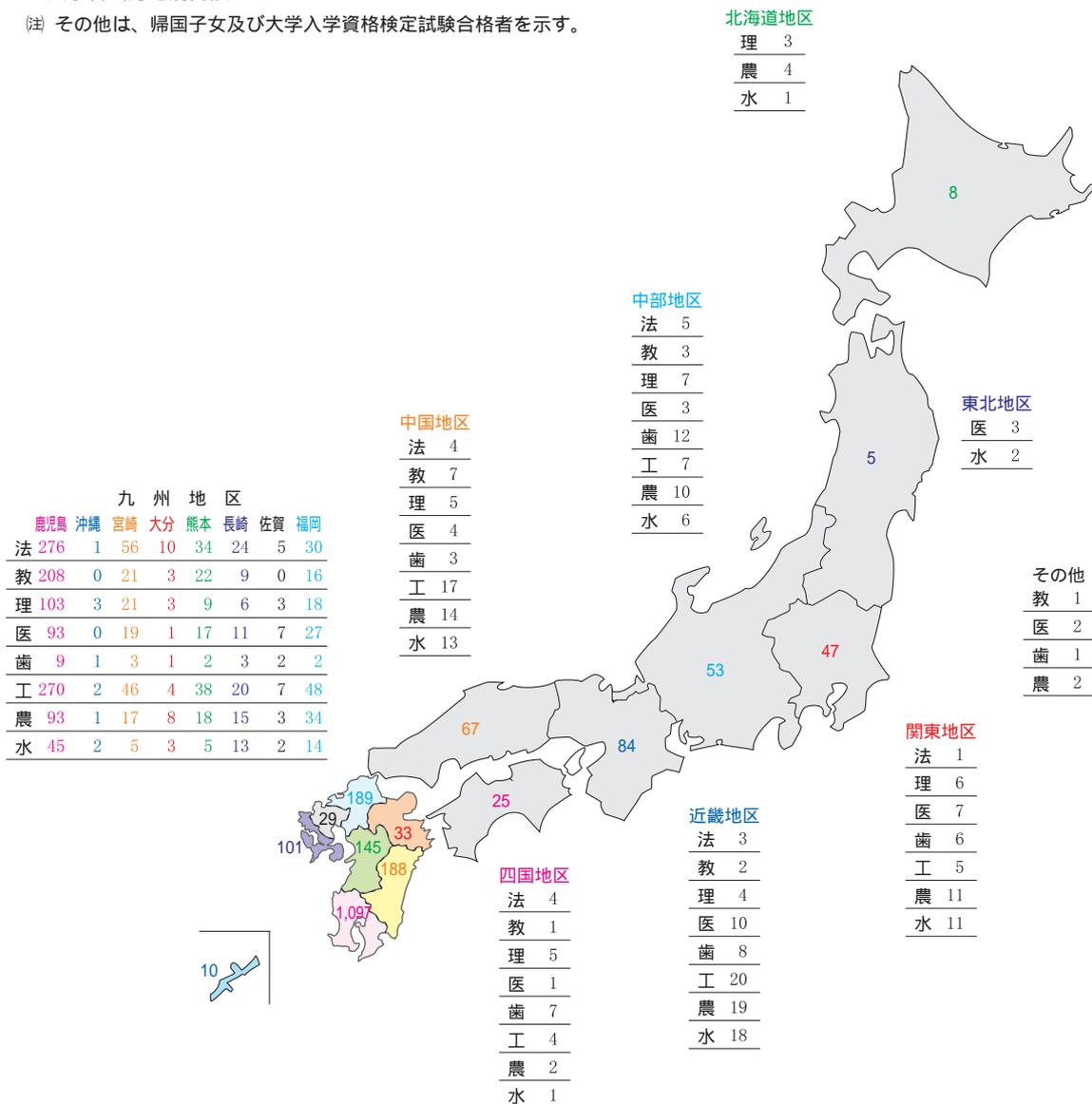
学 部

| 学 部 名 | 入学定員 | 志 願 者 数 | 入 学 者 数 | | 入学者の出身地別 (百分比) | |
|---------|-------|--------------|-------------------|-------------|-------------------|-----|
| | | | | | 県 内 | 県 外 |
| 法 文 学 部 | 425 | 1,422(731) | 1 ⁽¹⁾ | 453(243) | 61 | 39 |
| 教 育 学 部 | 275 | 1,367(827) | | 293(164) | 71 | 29 |
| 理 学 部 | 185 | 576(206) | 6 ⁽⁰⁾ | 196(64) | 53 | 47 |
| 医 学 部 | 205 | 1,203(732) | 1 ⁽¹⁾ | 205(127) | 45 | 55 |
| 歯 学 部 | 60 | 546(205) | | 60(22) | 15 | 85 |
| 工 学 部 | 475 | 1,488(205) | 2 ⁽⁰⁾ | 488(64) | 55 | 45 |
| 農 学 部 | 235 | 1,276(582) | 1 ⁽⁰⁾ | 251(110) | 37 | 63 |
| 水 産 学 部 | 140 | 467(181) | | 141(61) | 32 | 68 |
| 合 計 | 2,000 | 8,345(3,669) | 11 ⁽²⁾ | 2,087(855) | 53 | 47 |

(注) 1. () 内は女子を内数で示す。 2. は外国人留学生を外数でそのうち () は女子を内数で示す。

入学者出身地別内訳

(注) その他は、帰国子女及び大学入学資格検定試験合格者を示す。



専攻科

| 専攻科名 | 入学定員 | 志願者数 | 入学者数 | 入学者の出身地 (百分比) | |
|-------|------|-------|-------|------------------|----|
| | | | | 県内 | 県外 |
| 水産専攻科 | 40 | 8 (6) | 8 (6) | 25 | 75 |

(注) 1. () 内は女子を内数で示す。

大学院

| 研究科名 | 入学定員 | 修士課程 (博士前期) | | 博士課程 (博士後期) | | 入学者の出身地 (百分比) | |
|-----------|------|----------------------|---------------------|---------------------|---------------------|------------------|----|
| | | 志願者数 | 入学者数 | 志願者数 | 入学者数 | 県内 | 県外 |
| 人文社会科学研究科 | 38 | 3 (1) 52 (12) | 1 (1) 32 (8) | | | 73 | 27 |
| 教育学研究科 | 35 | 6 (6) 48 (23) | 5 (5) 39 (18) | | | 68 | 32 |
| 医学研究科 | 58 | | | 1 (1) 40 (6) | 1 (1) 37 (4) | 84 | 16 |
| 歯学研究科 | 18 | | | 0 (0) 7 (1) | 0 (0) 5 (0) | 100 | 0 |
| 理工学研究科 | 190 | 14 (7) 345 (47) | 14 (7) 234 (32) | | | 59 | 41 |
| | 22 | | | 11 (4) 35 (5) | 10 (3) 35 (5) | 33 | 67 |
| 農学研究科 | 68 | 8 (2) 62 (21) | 8 (2) 49 (20) | | | 66 | 34 |
| 水産学研究科 | 32 | 5 (2) 38 (9) | 5 (2) 32 (9) | | | 14 | 86 |
| 連合農学研究科 | 22 | | | 31 (6) 24 (5) | 31 (6) 24 (5) | 10 | 90 |
| 合計 | 483 | 36 (18) 545 (112) | 33 (17) 386 (87) | 43 (11) 106 (17) | 42 (10) 101 (14) | 56 | 44 |

平成11年度秋季入学

| | | | | | | | |
|-------|--|--|--|-----------------|-----------------|----|----|
| 医学研究科 | | | | 2 (2) 23 (3) | 2 (2) 23 (3) | 60 | 40 |
|-------|--|--|--|-----------------|-----------------|----|----|

(注) 1. () は女子を内数で示す。 2. は外国人留学生を外数でそのうち () は女子を内数で示す。

医療技術短期大学部

| 専攻科名 | 入学定員 | 志願者数 | 入学者数 | 入学者の出身地 (百分比) | |
|-----------|------|---------|--------|------------------|----|
| | | | | 県内 | 県外 |
| 助産学特別専攻 | 20 | 79 (0) | 20 (0) | 70 | 30 |
| 地域看護学特別専攻 | 20 | 122 (0) | 21 (0) | 48 | 52 |
| 合計 | 40 | 201 (0) | 41 (0) | 59 | 41 |

(注) 1. () 内は男子を内数で示す。

卒業(修了)生数及び就職状況 平成12年5月1日現在

学 部

| 学部名 | 卒業生数 累計 | 平成11年度 卒業生数 | 就 業 状 況 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|------------|----------------|---------|------|------------|-----------|------------------|----------------------|-----|-----|-----|-------|----|----|----|----|-----|-----------|-----|
| | | | 就職希望者数 | 就職者数 | 就職率 (%) | 業 種 別 | | | | | | 地 区 別 | | | | | | | |
| | | | | | | 農林業 水産 | 鉱業 建設業 製造業 | 卸小売 運輸通信 サービス業 | 公務員 | 教員 | その他 | 関東 | 中部 | 近畿 | 中国 | 四国 | 九州 | 鹿児島 島内 | その他 |
| 法文学部 | 9,440 | 409 | 302 | 190 | 62.9 | 1 | 13 | 104 | 46 | 19 | 7 | 27 | 5 | 12 | 2 | | 33 | 111 | |
| 教育学部 | 14,455 | 373 | 213 | 167 | 78.4 | 1 | 5 | 24 | 11 | 114 | 12 | 5 | | 3 | | 1 | 14 | 144 | |
| 理学部 | 4,189 | 169 | 90 | 71 | 78.9 | | 14 | 30 | 7 | 20 | | 8 | 1 | 1 | | | 24 | 37 | |
| 医学部 | 3,711 | 69 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 歯学部 | 1,124 | 45 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 工学部 | 11,163 | 425 | 196 | 170 | 86.7 | | 91 | 43 | 14 | | 22 | 61 | 6 | 5 | 1 | 1 | 42 | 54 | |
| 農学部 | 8,992 | 235 | 158 | 133 | 84.2 | 14 | 34 | 41 | 32 | 4 | 8 | 4 | 2 | 9 | 7 | 1 | 42 | 67 | 1 |
| 水産学部 | 5,506 | 141 | 98 | 61 | 62.2 | 11 | 13 | 28 | 7 | | 2 | 12 | 2 | 8 | 2 | | 12 | 24 | 1 |
| (文理学部) | 2,651 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | 61,231 | 1,866 | 1,057 | 792 | 74.9 | 27 | 170 | 270 | 117 | 157 | 51 | 117 | 16 | 38 | 12 | 3 | 167 | 437 | 2 |

(注) 1. 卒業生数(累計)は昭和24年5月本学設置以降の全数を計上した。ただし、医・工学部については昭和30年国立移管以降について計上した。
2. 卒業生数は9月または10月卒業生を含む。

専攻科

| 研究科名 | 修士課程 | | 博士課程 | |
|-----------|--------------|----------------|--------------|----------------|
| | 修了生数 (累計) | 平成11年度 修了生数 | 修了生数 (累計) | 平成11年度 修了生数 |
| 人文社会科学研究科 | 31 | 31 | | |
| 法学研究科 | 123 | 3 | | |
| 人文科学研究科 | 117 | 2 | | |
| 教育学研究科 | 152 | 48 | | |
| 理学研究科 | 539 | 2 | | |
| 医学研究科 | | | 394 | 21 |
| 歯学研究科 | | | 81 | 4 |
| 理工学研究科 | 2,137 | 180 | 75 | 17 |
| 農学研究科 | 1,183 | 45 | | |
| 水産学研究科 | 676 | 26 | | |
| 連合農学研究科 | | | 281 | 38 |
| 計 | 4,958 | 337 | 831 | 80 |

| 専攻科名 | 修了生数 (累計) | 平成11年度 修了生数 |
|---------------------|--------------|----------------|
| 水産専攻科 (特設専攻科を含む) | 629 | 11 |
| (教育専攻科) | 124 | - |
| 計 | 753 | 11 |

(注) 1. 博士課程については、単位修得後退学した者は含まない。

医療技術短期大学部

| 学科等名 | (卒業生数 累計) | 卒業生数 平成11年度 | 就職者数 | 進学者数 | その他 | 就 職 状 況 | | | | | |
|--------------|--------------|----------------|------|------|-----|---------|------------|----|---------|----|-----|
| | | | | | | 鹿大病院 | その他の病院・診療所 | | 市町村・保健所 | | その他 |
| | | | | | | | 県内 | 県外 | 県内 | 県外 | |
| 看護学科 | 934 | 77 | 42 | 31 | 4 | 10 | 16 | 16 | | | |
| 理学療法学科 | 234 | 19 | 16 | 2 | 1 | | 10 | 6 | | | |
| 作業療法学科 | 224 | 19 | 16 | 3 | | | 5 | 11 | | | |
| 専攻科助産学特別専攻 | 215 | 19 | 18 | | 1 | | 7 | 11 | | | |
| 専攻科地域看護学特別専攻 | 221 | 20 | 20 | | | | 1 | 5 | 7 | 6 | 1 |
| 計 | 1,828 | 154 | 112 | 36 | 6 | 10 | 39 | 49 | 7 | 6 | 1 |

学位授与状況

(平成12年5月1日現在)

| 研究科名 | 修士 | | 博士 | | | |
|-----------|-------|----------|-----|----------|-------|----------|
| | 累計 | 平成11年度授与 | 課程 | | 論文 | |
| | | | 累計 | 平成11年度授与 | 累計 | 平成11年度授与 |
| 法学研究科 | 123 | 3 | | | | |
| 人文科学研究科 | 117 | 2 | | | | |
| 人文社会科学研究科 | 31 | 31 | | | | |
| 教育学研究科 | 152 | 48 | | | | |
| 理学研究科 | 539 | 2 | | | | |
| 医学研究科 | | | 450 | 26 | 1,270 | 30 |
| 歯学研究科 | | | 94 | 5 | 41 | 6 |
| 理工学研究科 | 2,137 | 180 | 78 | 20 | 13 | 8 |
| 農学研究科 | 1,183 | 45 | | | | |
| 水産学研究科 | 676 | 26 | | | | |
| 連合農学研究科 | | | 286 | 43 | 32 | 3 |
| 計 | 4,958 | 337 | 908 | 94 | 1,356 | 47 |

(注) 1. 医学研究科については、国立移管後の数を計上した。

奨学生

(平成12年5月1日現在)

| 学部等名 | 在学生数 | 日本育英会 | | | 各種団体育英会 | 計 | 在学生に対する百分率 |
|---------|--------|--------|--------|----------|---------|-------|------------|
| | | 第1種奨学生 | 第2種奨学生 | きぼう21プラン | | | |
| 学部 | 法文 | 2,027 | 335 | 50 | 89 | 51 | 25.9 |
| | 教育 | 1,353 | 240 | 30 | 70 | 26 | 27.1 |
| | 理 | 867 | 174 | 28 | 79 | 0 | 32.4 |
| | 医 | 881 | 95 | 15 | 53 | 46 | 23.7 |
| | 歯 | 398 | 52 | 11 | 48 | 11 | 30.7 |
| | 工 | 2,242 | 367 | 67 | 144 | 47 | 27.9 |
| | 農 | 1,136 | 179 | 23 | 93 | 29 | 28.5 |
| | 水産 | 623 | 60 | 7 | 43 | 2 | 18.0 |
| 計 | 9,527 | 1,502 | 231 | 619 | 211 | 2,563 | 26.9 |
| 水産専攻科 | 9 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | 22.2 |
| 大学院(修士) | 人文社会科学 | 87 | 9 | 0 | 4 | 1 | 16.1 |
| | 教育学 | 89 | 8 | 0 | 7 | 0 | 16.9 |
| | 理工学 | 476 | 82 | 0 | 62 | 0 | 30.3 |
| | 農学 | 109 | 8 | 0 | 16 | 0 | 22.0 |
| | 水産学 | 87 | 9 | 0 | 11 | 2 | 25.3 |
| 計 | 853 | 116 | 0 | 100 | 3 | 219 | 25.7 |
| 大学院(博士) | 理工学 | 120 | 27 | 0 | 0 | 0 | 22.5 |
| | 医学 | 224 | 15 | 0 | 0 | 0 | 6.7 |
| | 歯学 | 32 | 16 | 0 | 0 | 0 | 50.0 |
| | 連合農学 | 171 | 31 | 0 | 0 | 0 | 18.1 |
| 計 | 547 | 84 | 0 | 0 | 0 | 84 | 15.4 |
| 合計 | 10,936 | 1,704 | 231 | 719 | 214 | 2,868 | 26.2 |

備考：奨学金月額

日本育英会(平成12年度入学者)

第1種奨学生 学部生：自宅通学41,000円 自宅外通学47,000円

大学院生：修士・博士前期課程84,000円 博士後期課程117,000円

きぼう21プラン 学部生：30,000・50,000・80,000・100,000円

修士・博士前期課程：50,000・80,000・100,000・130,000円

各種団体育英会 10,000～51,000円

外国人研究者の受入状況

(平成11年度)

| 区 分 | 研究者数 |
|----------------|------|
| 外国人教師・講師 | 4 |
| 外国人研究員制度による研究員 | 3 |
| 外国人教員 | 13 |
| 国際協力事業団による研修員 | 18 |
| 日本学術振興会による研究員 | 33 |
| 外国政府等支弁による研究員 | 8 |
| その他の外国人研究員 | 256 |
| 視察・見学 | 163 |
| 計 | 498 |



中国雲南農業大学との学術交流協定調印式後の記念撮影

国際学術交流協定大学

国際学術交流協定大学 (27大学)

(平成11年度)

| 締結大学・年月日 | 締結母体 | 協 定 内 容 | 受入者数 | 派遣者数 | 共同研究 |
|--------------------------------------|----------------------|--|------|------|------|
| (中国) 湘潭大学 昭和61年12月11日 | 大学 | 学術刊行物の交換 教官・学生の交流 教官・学生の交流に関する援助及び便宜供与 | 0 | 0 | 0 |
| (中国) 雲南農業大学 平成元年5月11日 * | 農学部 大学 | 研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生の交流、共同研究・調査 出版物等の交換 | 22 | 2 | 0 |
| (中国) 湖南農業大学 平成元年6月2日 * | 農学部 大学 | 研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生の交流、共同研究・調査 出版物等の交換 | 4 | 5 | 0 |
| (中国) 湖南医科大学 平成5年6月15日 | 大学 | 研究者の交流、博士課程大学院学生の共同指導 共同研究・調査、学術出版物の交換 | 1 | 1 | 1 |
| (中国) 中国医科大学 平成5年9月13日 * | 医学部 大学 | 研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生の交流 共同研究・調査、出版物の交換 | 4 | 7 | 3 |
| (中国) 湖南大学 平成7年8月23日 * | 工学部 大学 | 研究者の交流、事務官・技官等の交流 共同研究・調査、出版物の交換 | 3 | 5 | 1 |
| (中国) 青島海洋大学 平成8年3月20日 | 大学 | 研究者の交流、学生の交流 共同研究・調査の実施 学術出版物の交換 | 0 | 0 | 0 |
| (中国) 南京化工大学 平成11年9月14日 * | 大学 | 研究者の交流、事務官・技官の交流 学生の交流、共同研究・調査 出版物の交換 | 0 | 0 | 0 |
| (中国) 南開大学情報科学学院 平成11年12月27日 | 工学部 | 研究者の交流、事務官・技官の交流 学生の交流、共同研究・調査 出版物の交換 | 0 | 0 | 0 |
| (韓国) 釜慶大学校水産科学大学 平成7年7月6日 * | 水産学部 大学 | 研究者の交流、学生の交流 共同研究・調査の実施 学術出版物の交換 | 0 | 1 | 0 |
| (韓国) 全北大学校 平成9年4月22日 | 大学 | 研究者の交流、事務官・技官の交流 学生の交流 学術出版物の交換、共同研究・調査の実施 | 49 | 2 | 0 |
| (韓国) 群山大学校海洋科学大学 平成9年12月1日 | 水産学部 | 研究者の交流、学生の交流 共同研究・調査の実施 学術出版物の交換 | 0 | 0 | 0 |
| (韓国) 済州大学校 平成10年1月30日 | 大学 | 教職員の交流、研究員・学生の交流 共同研究・調査の実施 学術出版物の交換 | 0 | 0 | 1 |
| (インドネシア) ボゴール農科大学 昭和57年12月24日 * | 水産学部 | 教官・研究・研修の協力 教官・大学院学生の交流 | 1 | 0 | 0 |
| (インドネシア) デイボネゴロ大学 平成12年3月2日 | 農学部 | 研究者の交流、事務官・技官の交流 学生の交流、共同研究・調査 出版物等の交換 | 1 | 1 | 0 |
| (フィリピン) フィリピン大学ヴィサヤ校 平成10年2月26日 | 水産学部 | 研究者の交流 共同研究、セミナーの開催 学術出版物の交換 | 13 | 12 | 1 |
| (南太平洋12ヶ国・地域) 南太平洋大学 昭和57年7月21日 | 大学 水産学部 南太平洋地域研究センター | 教官・博士課程修了者の交流、共同研究の推進 セミナー・研修の実施 学術情報の交換 | 1 | 1 | 0 |
| (バブアニューギニア) バブアニューギニア大学 昭和62年5月29日 * | 大学 水産学部 南太平洋地域研究センター | 研究者の交流、事務官・技官の交流 学生の交流、共同研究・調査 学術出版物等の交換 | 4 | 1 | 0 |
| (バブアニューギニア) バブアニューギニア工科大学 平成元年12月1日 | 大学 水産学部 南太平洋地域研究センター | 熱帯太平洋域にかかわる海洋水産科学・総合科学分野に おける共同研究及び学術調査の推進 教官・学生の交流、セミナー・研修の実施・学術情報の交換 | 0 | 0 | 0 |
| (オーストラリア) ニューイングランド大学 平成7年7月20日 * | 教養部 大学 | 教員・研究員の交流、事務官・技官等の交流 学生の受入れ・派遣、共同研究・調査の実施 学術出版物の情報交換 | 2 | 1 | 0 |
| (オーストラリア) シドニー工科大学 平成12年3月1日 * | 大学 | 研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生の交流、共同研究・調査 出版物等の交換 | 2 | 1 | 0 |
| (カナダ) ビクトリア大学 昭和61年11月5日 | 水産学部 | 微生物生理・生化学分野における大学院学生の交流 | 0 | 0 | 0 |
| (アメリカ) ジョージア大学 昭和54年11月29日 * | 農学部 大学 | 教官・学生・事務官・技官の交流 共同研究プログラムの実施 学術出版物の交換 | 5 | 9 | 1 |
| (アメリカ) マイアミ大学 平成4年11月30日 | 大学 | 研究者の交流、学生の受入・派遣 共同研究 調査の実施 学術出版物の交換 | 0 | 4 | 1 |
| (コロンビア) バジェ州立大学 平成7年8月30日 * | 大学 | 研究者の交流、学生の受入・派遣 共同研究・調査の実施 学術出版物の情報交換 | 4 | 1 | 1 |
| (スペイン) バレンシア工科大学 平成12年2月7日 * | 大学 | 研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生の交流 共同研究・調査、出版物等の交換 | 5 | 1 | 0 |
| (タンザニア) ソコネ農科大学農学部 平成11年8月30日 * | 農学部 | 教官・技官・事務官・学生の交流 共同研究と調査活動 学術出版物の交換 | 3 | 0 | 0 |
| 計 | | | 124 | 55 | 10 |

*印は、学生交流に関する覚書(授業料不徴収協定)を締結している大学を表す。

学術刊行物

| 部 局 等 名 | 刊 行 物 名 | 発行回数 |
|---------------------|--|--|
| 法 文 学 部 | 鹿児島大学法文学部紀要（法学論集、経済学論集、人文学科論集） 鹿児島大学法文学部国語国文学会誌（国語国文薩摩路） 鹿大史学会誌（鹿大史学） 鹿児島大学英文学会誌（鹿大英文学） | 年 2 回 年 1 回 年 1 回 年 1 回 |
| 教 育 学 部 | 鹿児島大学教育学部研究紀要（人文・社会科学編、自然科学編、教育科学編） 鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要 鹿児島大学教育学部附属小学校研究紀要 鹿児島大学教育学部附属中学校研究紀要 鹿児島大学教育学部附属養護学校研究紀要 | 年 1 回 年 1 回 年 1 回 年 1 回 隔年 1 回 |
| 理 学 部 | 鹿児島大学理学部紀要 | 年 1 回 |
| 医 学 部 | Acta Medica Universitatis Kagoshimaensis 鹿児島大学医学雑誌 鹿児島大学医学部保健学科紀要 | 休 刊 年 4 回 年 2 回 |
| 歯 学 部 | 鹿児島大学歯学部紀要 | 年 1 回 |
| 工 学 部 | 鹿児島大学工学部研究報告 | 年 1 回 |
| 農 学 部 | 鹿児島大学農学部学術報告 Memoirs of the Faculty of Agriculture Kagoshima University 鹿児島大学農学部農場研究報告 鹿児島大学農学部附属農場技術調査報告書 鹿児島大学農学部演習林報告 | 年 1 回 年 1 回 年 1 回 年 1 回 年 1 回 |
| 水 産 学 部 | 鹿児島大学水産学部紀要 Mini Review and Data File of Fisheries Reserch | 年 1 回 隔年 1 回 |
| 保 健 管 理 セ ン タ ー | 鹿児島大学保健管理センター年報 | 年 1 回 |
| 地 域 共 同 研 究 セ ン タ ー | 鹿児島大学地域共同研究センター年報 鹿児島大学地域共同研究センターニュース | 年 1 回 年 2 回 |
| 総 合 情 報 処 理 セ ン タ ー | 総合情報処理センター広報 | 年 1 回 |
| 遺 伝 子 実 験 施 設 | 遺伝子実験施設ニュースレター | 年 2 回 |
| 多 島 圏 研 究 セ ン タ ー | 南太平洋研究 南太平洋海域調査研究報告 | 年 2 回 不定期 |

研究員等の受入状況

(平成11年度)

| 区 分 | 受託研究員 | 内地研究員 | 公・私立大学 研 修 員 | 産 業 教 育 内 地 留 学 生 | 計 |
|---------|-------|-------|-----------------|----------------------|---|
| 法 文 学 部 | 1 | | | | 1 |
| 教 育 学 部 | | | | 1 | 1 |
| 理 学 部 | | | | | |
| 医 学 部 | 2 | | | | 2 |
| 歯 学 部 | | | | | |
| 工 学 部 | | | | | |
| 農 学 部 | 1 | | | | 1 |
| 水 産 学 部 | 1 | | | | 1 |
| 計 | 5 | | | 1 | 6 |

歳入歳出決算 平成11年度

歳入

(単位：千円)

| 会計名 | 科目 | 収納済歳入額 |
|----------|------------|------------|
| 国立学校特別会計 | 附属病院収入 | 12,094,013 |
| | 授業料及び入学検定料 | 5,418,890 |
| | 学校財産処分収入 | 1,092 |
| | 雑収入 | 1,511,947 |
| 合計 | | 19,025,942 |

歳出

(単位：千円)

| 区分 | 総額 | 国立学校 | 大学附属病院 | 産学連携等研究費 | 施設整備費 | 文部本省 |
|----------|------------|------------|------------|----------|-----------|---------|
| 国立学校特別会計 | 38,035,674 | 20,278,955 | 13,729,583 | 392,565 | 3,634,571 | |
| 一般会計 | 331,436 | | | | | 331,436 |
| 合計 | 38,367,110 | 20,278,955 | 13,729,583 | 392,565 | 3,634,571 | 331,436 |

各種学術研究費

科学研究費補助金採択状況

(単位：千円)

| 学部等 | 平成8年度 | | 平成9年度 | | 平成10年度 | | 平成11年度 | | 平成12年度 | |
|------------|-------|---------|-------|---------|--------|---------|--------|---------|--------|---------|
| | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 |
| 総合情報処理センター | - | - | - | - | - | - | - | - | 1 | 1,700 |
| 遺伝子実験施設 | - | - | 1 | 1,600 | 1 | 1,100 | - | - | - | - |
| 多島圏研究センター | - | - | - | - | - | - | 2 | 1,700 | 1 | 700 |
| 法文学部 | 11 | 8,500 | 16 | 27,900 | 16 | 22,200 | 16 | 22,300 | 14 | 12,100 |
| 教育学部 | 7 | 5,100 | 7 | 10,900 | 11 | 13,600 | 9 | 8,000 | 11 | 29,700 |
| 理学部 | 10 | 9,900 | 14 | 22,900 | 19 | 31,500 | 21 | 36,100 | 21 | 47,400 |
| 医学部 | 78 | 154,900 | 77 | 165,600 | 83 | 168,600 | 76 | 151,800 | 73 | 190,700 |
| 歯学部 | 41 | 72,300 | 44 | 62,200 | 50 | 65,300 | 44 | 85,800 | 51 | 122,000 |
| 工学部 | 41 | 74,800 | 43 | 75,700 | 42 | 74,900 | 38 | 79,600 | 40 | 124,900 |
| 農学部 | 31 | 51,700 | 32 | 73,400 | 38 | 87,900 | 34 | 70,600 | 33 | 48,900 |
| 水産学部 | 8 | 11,700 | 5 | 8,000 | 8 | 14,000 | 6 | 10,400 | 8 | 12,800 |
| 教養部 | 11 | 46,600 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 医療技術短期大学部 | 2 | 1,900 | 2 | 1,200 | 2 | 2,000 | - | - | - | - |
| 計 | 240 | 437,400 | 241 | 449,400 | 270 | 481,100 | 246 | 466,300 | 253 | 590,900 |

(注) 多島圏研究センターの平成8年度～平成9年度は、南太平洋海域研究センターの状況を示す。

受託研究費受入状況

(単位：千円)

| 学 部 等 | 平成7年度 | | 平成8年度 | | 平成9年度 | | 平成10年度 | | 平成11年度 | |
|---------|-------|---------|-------|---------|-------|---------|--------|---------|--------|---------|
| | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 |
| 教 育 学 部 | 1 | 762 | 1 | 762 | 1 | 943 | 1 | 943 | 1 | 943 |
| 理 学 部 | 1 | 2,286 | 1 | 2,286 | 2 | 2,825 | 3 | 2,983 | 2 | 7,598 |
| 医 学 部 | 51 | 67,028 | 56 | 152,090 | 46 | 105,472 | 51 | 121,141 | 48 | 136,669 |
| 歯 学 部 | 4 | 4,507 | 5 | 5,257 | 6 | 4,257 | 7 | 8,033 | 7 | 7,833 |
| 工 学 部 | 8 | 13,232 | 11 | 29,410 | 13 | 55,978 | 15 | 67,383 | 10 | 45,413 |
| 農 学 部 | 8 | 10,357 | 5 | 4,399 | 7 | 10,520 | 7 | 11,329 | 12 | 28,253 |
| 水 産 学 部 | 8 | 9,556 | 8 | 8,882 | 7 | 10,292 | 8 | 12,585 | 10 | 11,309 |
| 計 | 81 | 107,728 | 87 | 203,086 | 82 | 190,287 | 92 | 224,397 | 90 | 238,018 |

奨学寄附金受入状況

(単位：千円)

| 学 部 等 | 平成7年度 | | 平成8年度 | | 平成9年度 | | 平成10年度 | | 平成11年度 | |
|-------------------|-------|-----------|-------|---------|-------|---------|--------|-----------|--------|---------|
| | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 |
| 事 務 局 | 3 | 6,357 | 4 | 2,569 | 3 | 1,220 | 4 | 1,556 | 3 | 1,037 |
| 保 健 管 理 セ ン タ ー | 1 | 1,000 | 2 | 1,394 | | | | | 1 | 1,000 |
| 多 島 圏 研 究 セ ン タ ー | 2 | 1,500 | 2 | 500 | 1 | 300 | 4 | 3,100 | 3 | 960 |
| 附 属 図 書 館 | | | | | | | | | | |
| 法 文 学 部 | 1 | 110 | | | 5 | 4,081 | 4 | 4,600 | 6 | 8,180 |
| 教 育 学 部 | 12 | 5,566 | 7 | 6,200 | 12 | 8,646 | 17 | 8,811 | 13 | 4,720 |
| 理 学 部 | 16 | 11,055 | 17 | 7,096 | 18 | 13,548 | 22 | 16,151 | 13 | 9,680 |
| 医 学 部 | 769 | 648,123 | 816 | 645,449 | 792 | 634,743 | 806 | 771,156 | 827 | 649,979 |
| 歯 学 部 | 39 | 25,358 | 44 | 29,082 | 54 | 30,211 | 58 | 30,236 | 53 | 33,676 |
| 工 学 部 | 90 | 222,936 | 89 | 62,432 | 96 | 84,247 | 101 | 66,460 | 108 | 57,458 |
| 農 学 部 | 69 | 60,970 | 74 | 51,570 | 76 | 60,356 | 62 | 56,839 | 66 | 51,106 |
| 附 属 農 場 | 5 | 5,078 | 3 | 3,778 | 3 | 3,478 | 2 | 1,500 | 3 | 940 |
| 水 産 学 部 | 19 | 17,481 | 19 | 14,756 | 22 | 16,781 | 19 | 39,042 | 17 | 11,212 |
| 教 養 部 | 6 | 5,894 | 6 | 2,494 | | | | | | |
| 医 療 技 術 短 期 大 学 部 | 17 | 5,880 | 13 | 3,400 | 14 | 6,299 | 8 | 2,290 | | |
| 計 | 1,049 | 1,017,308 | 1,096 | 830,720 | 1,096 | 863,910 | 1,107 | 1,001,741 | 1,113 | 829,948 |

(注) 多島圏研究センターの平成7年度～平成9年度は、南太平洋海域研究センターの状況を示す。

民間等との共同研究受入状況

(単位：千円)

| 学 部 等 | 平成7年度 | | 平成8年度 | | 平成9年度 | | 平成10年度 | | 平成11年度 | |
|---------------------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 |
| 地 域 共 同 研 究 セ ン タ ー | | | | | 1 | 2,500 | 4 | 5,840 | 18 | 9,460 |
| 法 文 学 部 | | | | | | | | | 1 | 420 |
| 理 学 部 | 3 | 3,324 | | | | | 2 | 1,000 | 2 | 840 |
| 医 学 部 | 2 | 3,508 | 1 | 1,024 | 2 | 2,064 | 3 | 4,984 | 6 | 5,504 |
| 歯 学 部 | | | | | 1 | 150 | 1 | 300 | 1 | 300 |
| 工 学 部 | 11 | 27,630 | 9 | 17,508 | 13 | 22,154 | 13 | 28,355 | 11 | 32,410 |
| 農 学 部 | 1 | 412 | 2 | 3,700 | 1 | 200 | 1 | 2,420 | 2 | 2,840 |
| 水 産 学 部 | 2 | 2,000 | 2 | 2,000 | 2 | 2,000 | 2 | 2,000 | 1 | 1,500 |
| 計 | 19 | 36,874 | 14 | 24,232 | 20 | 29,068 | 26 | 44,899 | 42 | 53,274 |

公開講座

(公開講座)

(平成12年度)

| 講座名 (実施部局) | 開設期間 時間帯 | 時間数 (時間) | 講習料 (円) | 受講対象者 | 募集人員 (人) | 開催場所 |
|---|---|-------------|------------|-------------------------------|-------------|----------------------|
| 異文化との共存 (法文学部) | 6 / 3 ~ 7 / 22 13 : 30 ~ 16 : 30 | 25 | 8,500 | 一般市民 | 60 | 鹿児島大学法文学部 |
| 超高齢社会への法的対応 - 介護保険と成年後見制度 - (法文学部) | 9 / 30 10 : 00 ~ 16 : 00 | 5 | 4,500 | 一般市民、介護 支援専門員及び 福祉行政関係者 | 30 | 鹿児島県自治会館 |
| コンピュータと教育 (教育学部) | 8 / 2 ~ 8 / 4 9 : 00 ~ 16 : 20 | 18 | 7,500 | 教育関係者 | 35 | 鹿児島大学教育学部 |
| 不登校と子育て (教育学部) | 7 / 20 ~ 10 / 30 13 : 30 ~ 16 : 30 | 10 | 5,500 | 一般市民 | 30 | 鹿児島大学教育学部 |
| 地域づくりと私たちの生 涯学習 (教育学部) | 4 / 1 ~ 3 / 23 19 : 00 ~ 20 : 30 | 20 | 7,500 | 一般市民 | 30 | 与論町中央公民館他 |
| 若者の生きがいづくりと 地域おこし (教育学部) | 4 / 1 ~ 3 / 23 10 : 00 ~ 21 : 00 | 15 | 6,500 | 青年及び成人 一般 | 30 | 与論町中央公民館他 |
| 老人の看護とリハビリテー ション (牧園町) (医学部) | 7 / 29 ~ 7 / 30 9 : 00 ~ 17 : 00 | 9.2 | 5,500 | 医療従事者 一般市民 | 80 | 霧島リハビリテーショ ンセンター |
| 老人の看護とリハビリテー ション (鹿児島市) (医学部) | 8 / 20 10 : 00 ~ 15 : 30 | 4.5 | 4,500 | 医療従事者 一般市民 | 80 | 鹿児島大学医学部鶴 陵会館 |
| 老人の看護とリハビリテー ション (宮崎市) (医学部) | 10 / 14 ~ 10 / 15 9 : 00 ~ 17 : 00 | 9.2 | 5,500 | 医療従事者 一般市民 | 80 | 宮崎県看護等研修セ ンター |
| 老人の看護とリハビリテー ション (那覇市) (医学部) | 11 / 25 ~ 11 / 26 9 : 00 ~ 17 : 00 | 8.5 | 5,500 | 医療従事者 一般市民 | 80 | 那覇市自治会館 |
| ナースのためのカウンセ リング体験講座 (医学部) | 9 / 30 13 : 00 ~ 17 : 00 | 4 | 4,500 | 看護婦 | 40 | 鹿児島大学医学部 |
| 生活習慣病の理解と対策 (医学部) | 10 / 14 9 : 00 ~ 17 : 00 | 7 | 5,500 | 医療従事者 | 200 | 鹿児島大学医学部 |
| 「口と全身」 (歯学部) | 10 / 1 13 : 00 ~ 18 : 00 | 5 | 4,500 | 歯科医師 | 60 | 沖縄県歯科医師会館 |
| 「顔学入門」 (歯学部) | 2 / 25 10 : 00 ~ 15 : 00 | 4 | 4,500 | 医療従事者 一般市民 | 100 | 鹿児島県歯科医師会 館 |
| 暮らしの中の情報工学 (工学部) | 9 / 3 10 : 00 ~ 16 : 00 | 5 | 4,500 | 一般市民 | 40 | 鹿児島大学工学部 |
| 鹿児島の森林を探る - 森 と人の共生 - (農学部) | 8 / 5 ~ 8 / 6 9 : 00 ~ 17 : 00 | 10 | 5,500 | 一般市民 | 20 | 鹿児島大学農学部附 属高隈演習林 |
| 鹿児島の海とクジラ - くらウオッチングへの招待 - (水産学部) | 8 / 27 8 : 00 ~ 17 : 00 | 8 | 5,500 | 一般市民、学生 等 (中学生以上) | 30 | 笠沙町「笠沙恵比寿」 と笠沙町近海 |
| 理学療法士・作業療法士 のための統計処理 (医学 部保健学科) | 7 / 1, 7 / 15 13 : 30 ~ 16 : 30 | 6 | 5,500 | 理学療法士 作業療法士 | 20 | 鹿児島大学医学部保 健学科 |
| ストーマ造設者のQOL向上 への援助 (医学部保健学科) | 8 / 5 9 : 30 ~ 17 : 00 | 6.5 | 5,500 | 保健婦 (土), 助産婦, 看護婦 (土) 等 | 50 | 鹿児島大学医学部保 健学科 |
| 高齢者の介護 (医学部保健学科) | 8 / 26 13 : 00 ~ 17 : 00 | 4 | 4,500 | 医療従事者 福祉関係者 | 40 | 鹿児島大学医学部保 健学科 |
| 家庭で生かす看護方法 (医学部保健学科) | 9/30, 10/14, 10/28 13 : 00 ~ 16 : 00 | 9 | 5,500 | 一般社会人 | 30 | 鹿児島大学医学部保 健学科 |
| 生涯スポーツ講座 (スコ ティッシュ・カントリー・ ダンス)(医学部保健学科) | 10 / 15, 10 / 29 10 : 00 ~ 16 : 00 | 10 | 5,500 | 一般市民 | 32 | 鹿児島大学医学部保 健学科 |
| 合計 (22) 講座 | | 202.9 | | | 1,197 | |

土地・建物・船舶

(平成12年5月1日現在)

| 区 分 | 土 地 (㎡) | 建 物 (延面積㎡) | | | 備 考 (単位㎡) | | | |
|-------|--------------------|-------------------|---------|---------|-----------------------------------|--|-----------|-------------|
| | | 木 造 | 非 木 造 | 計 | | | | |
| 土 | 郡元地区 | 本 部 | 1,475 | 10,866 | 12,341 | | | |
| | | 保 健 管 理 セ ン タ ー | 0 | 561 | 561 | | | |
| | | 附 属 図 書 館 | 0 | 12,697 | 12,697 | | | |
| | | 法 文 学 部 | 0 | 6,825 | 6,825 | | | |
| | | 理 学 部 | 0 | 12,512 | 12,512 | | | |
| | | 工 学 部 | 0 | 36,932 | 36,932 | | | |
| | | 農 学 部 | 210 | 33,280 | 33,490 | | | |
| | | 共 通 教 育 (旧 教 養 部) | 0 | 17,616 | 17,616 | | | |
| | | 教 育 学 部 | 118,010 | 838 | 38,424 | | 39,262 | |
| | 小 計 | 351,640 (22) | 2,523 | 169,713 | 172,236 | | | |
| 地 | 桜ヶ丘地区 | 医学部及び同附属病院 | 0 | 88,638 | 88,638 | 看護婦宿舎 (土地 4,431 建物 4,127) | | |
| | | 歯学部及び同附属病院 | 0 | 23,203 | 23,203 | | | |
| | | 亀ヶ原総合グラウンド | 0 | 52 | 52 | | | |
| | | 医療技術短期大学部 | 0 | 7,409 | 7,409 | | | |
| | | 桜ヶ丘寄宿舎 | 0 | 3,122 | 3,122 | | | |
| | 小 計 | 218,726 (4) | 0 | 122,424 | 122,424 | | | |
| 及 | 下荒田地区 | 水産学部 | 93 | 12,046 | 12,139 | 備外人宿舎(土地438 建物223) 宿舎(土地 3,455 建物 1,891) | | |
| | | 国際交流会館(1号館) | 0 | 1,430 | 1,430 | | | |
| | | "(2号館) | 0 | 1,259 | 1,259 | | | |
| | | 小 計 | 49,153 | 93 | 14,735 | | 14,828 | |
| 物 | その他 | 唐湊寄宿舎 | 0 | 5,694 | 5,694 | 宿舎(土地2,714 建物916) | | |
| | | 唐湊果樹園 | 0 | 1,015 | 1,015 | | | |
| | | 唐湊林園 | 19 | 0 | 19 | | | |
| | | 寺山自然教育研究施設 | 0 | 831 | 831 | | | |
| | | 教育学部附属養護学校 | 509 | 3,058 | 3,567 | | | |
| | | 桜島火山観測点 | 0 | 31 | 31 | | | |
| | | 霧島リハビリテーションセンター | 6 | 4,409 | 4,415 | | | |
| | | 高隈演習林 | 88 | 1,535 | 1,623 | | | |
| | | 佐多演習林 | 0 | 166 | 166 | | | |
| | | 入来牧場 | 0 | 3,347 | 3,347 | | | |
| | | 垂水育苗実験地 | 68 | 0 | 68 | | | |
| | | 桜島溶岩実験場 | 0 | 0 | 0 | | | |
| | 指宿植物試験場 | 313 | 2,047 | 2,360 | | | | |
| | 東町ステーション | 0 | 1,183 | 1,183 | その他の宿舎 (土地 16,382 建物 9,034) | | | |
| | 鴨池臨海地 | 0 | 1,642 | 1,642 | | | | |
| | 職員会館及び外国人宿泊施設 | 0 | 717 | 717 | | | | |
| | 磯艇庫 | 0 | 243 | 243 | | | | |
| | 谷山ふ頭 | 0 (1,156) | 0 | 0 | | | | |
| | 平川艇庫 | 0 (595) | 0 | 208 | | | | |
| | 甌島観測点 | 0 (49) | 0 | 24 | | | | |
| | 伊集院観測点 | 0 (7) | 0 | 0 | | | | |
| | 屋久島観測点 | 0 (109) | 0 | 40 | | | | |
| | 串間観測点 | 0 (58) | 0 | 58 | | | | |
| 紫尾観測点 | 0 (58) | 0 | 58 | | | | | |
| 黒島観測点 | 0 (58) | 0 | 58 | | | | | |
| 佐多観測点 | 0 (58) | 0 | 11 | | | | | |
| 高岡観測点 | 0 (105) | 0 | 40 | | | | | |
| 吉松観測点 | 0 (47) | 0 | 0 | | | | | |
| 小 計 | 36,006,925 (3,447) | 1,003 | 26,415 | 27,418 | | | | |
| 合 計 | 36,626,444 (3,473) | 3,619 | 333,287 | 336,906 | 宿舎(土地 29,420 建物 16,589) | | | |
| 船 | 船 名 | トン数(トン) | 機 関 | 馬 力 | 長 さ (m) | 幅 (m) | 深 さ (m) | 建 造 年 月 日 |
| | かごしま丸 | 1,297.08 | ディーゼル | 2,200 | 62.70 | 12.60 | 5.45 | 昭和56年10月30日 |
| | 敬天丸 | 860.25 | " | 2,000 | 57.04 | 11.00 | 6.90 | 昭和49年7月5日 |
| 南星丸 | 82.97 | " | 400 | 22.00 | 5.70 | 2.55 | 昭和51年3月8日 | |

(注) 1. 土地欄()内数量は借用地
2. 各地区土地及び建物数量には備考欄宿舎の数量は含まない。

地区別建物等配置図

郡元地区 (本部・法文学部・教育学部・理学部・工学部・農学部
大学院連合農学研究科・附属図書館・保健管理センター
地域共同研究センター・総合情報処理センター・遺伝子実験施設・多島園研究センター
アイソトープ総合センター・留学生センター)



部分は、自転車・単車用駐輪場

郡元地区

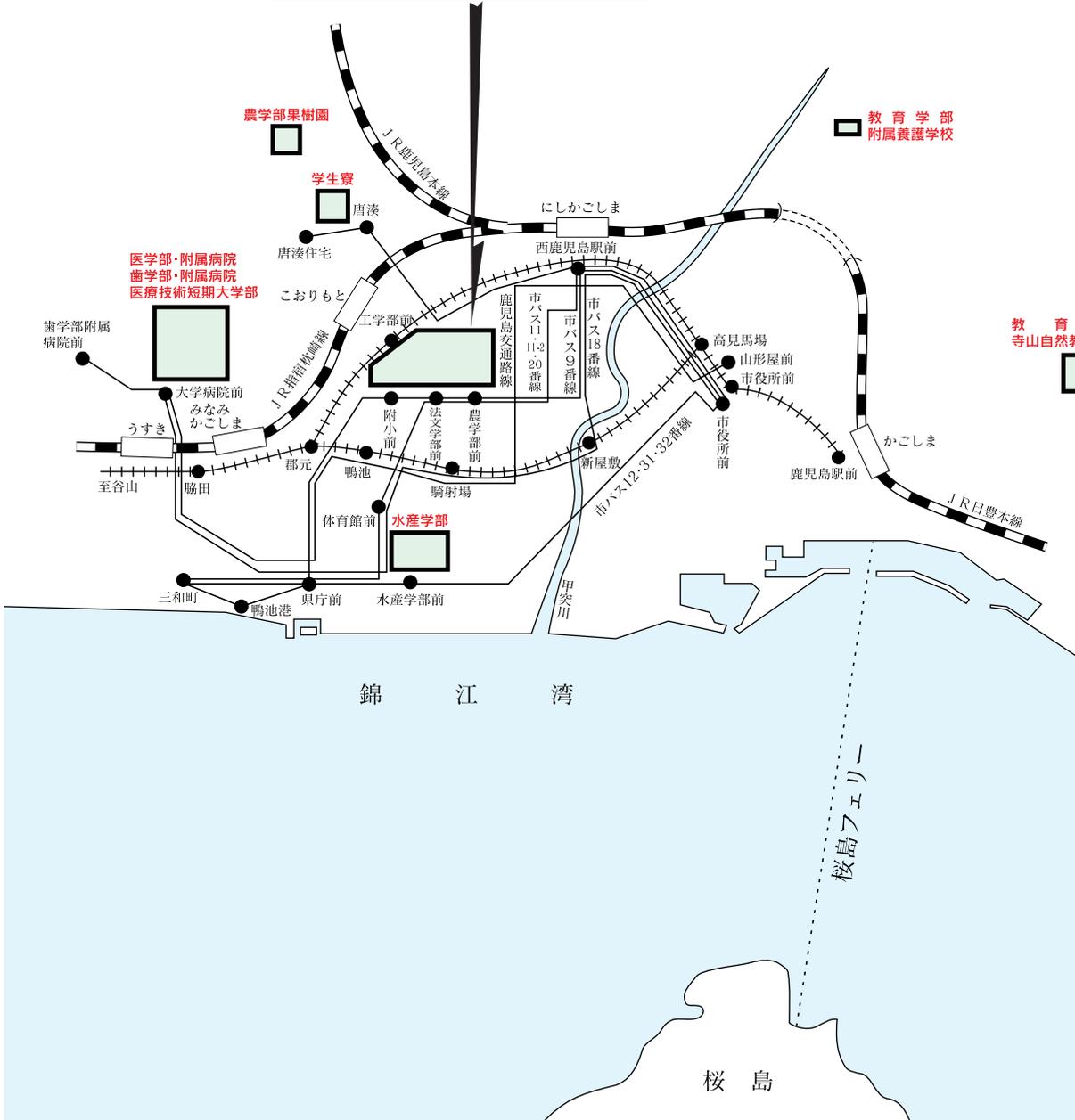
- ① 大学本部 (事務局・学生部)
- ② 保健管理センター
- ③ 本部車庫、電話交換室、埋文調査室
- ④ 農学部1号館 (管理室・生物生産学科・生物資源化学科・生物環境学科実験研究室)
- ⑤ 農学部2号館 (獣医学科実験研究室)
- ⑥ // 附属家畜病院
- ⑦ // 3号館 (生物資源化学科・生物環境学科実験研究室)
- ⑧ // 4号館 (生物生産学科・生物環境学科実験室・農業経営経済学研究室)
- ⑨ // 5号館 (生物生産学科・生物環境学科実験研究室)
- ⑩ // 6号館 (生物生産学科実験研究室・農業経営経済学研究室)
- ⑪ // 7号館 (獣医学科)
- ⑫ 倉庫
- ⑬ 遺伝子実験施設・アイソトープ総合センター
- ⑭ R1実験室
- ⑮ 農学部温室
- ⑯ // 植物研究実験施設
- ⑰ // 網室・硝子室
- ⑱ // 附属農場動物飼育棟
- ⑲ // 附属農場研究実験棟
- ⑳ // 低温貯蔵実験室
- ㉑ // 水理実験室
- ㉒ // 昆虫飼育棟
- ㉓ 中央変電所
- ㉔ ボイラー室・廃液処理施設
- ㉕ 中央食堂
- ㉖ 工学部中央実験工場
- ㉗ 工学部機械工学科第三実験棟
- ㉘ // 機械工学科2号棟
- ㉙ // 建築学科棟
- ㉚ // 電気電子工学科棟
- ㉛ // 機械工学科第一実験棟
- ㉜ // 機械工学科1号棟
- ㉝ // 応用化学工学科1号棟
- ㉞ // 機械工学科第二実験棟
- ㉟ // 応用化学工学科2号棟
- ㊱ // 海洋波動実験棟
- ㊲ // 薬品庫
- ㊳ // 海洋土木工学科棟
- ㊴ // 情報工学科棟
- ㊵ // 共通棟
- ㊶ 地域共同研究センター
- ㊷ 工学部管理棟
- ㊸ 稲盛会館
- ㊹ 倉庫
- ㊺ 学生サークル棟
- ㊻ 多島園研究センター
- ㊼ 理学部1号館 (管理室・物理科学科・地球環境科学科実験研究室・講義室)
- ㊽ // 2号館 (数理情報科学科・生命化学科・地球環境科学科・生命化学科実験研究室・講義室)
- ㊾ // 3号館 (生命化学科実験研究室・講義室)
- ㊿ 総合情報処理センター・留学生センター
- 1 大学会館 (1・2・4号館)
- 2 // 大集会室 (3号館)
- 3 共通教育棟1号館 (管理室・講義室)
- 4 // 2号館 (文科研究室)
- 5 共通教育棟3号館 (理科研究室)
- 6 // 4号館 (理科研究室)
- 7 中央図書館
- 8 法文学部管理棟・研究棟・講義棟
- 9 // 研究棟・講義棟
- 10 // 講義棟
- 11 学生サークル棟
- 12 第1体育館
- 13 第2体育館
- 14 教育学部武道場
- 15 // 体育科実験研究棟
- 16 // 管理棟・理系研究棟
- 17 // 講義棟
- 18 // 講義棟
- 19 // 実習棟
- 20 // 講義棟
- 21 // 文系研究棟
- 22 // 音楽美術科棟
- 23 教育実践研究指導センター
- 24 室内プール50m
- 25 教育学部附属幼稚園
- 26 // 附属中学校
- 27 // 附属中学校体育館
- 28 // 附属小学校
- 29 // 附属小学校体育館
- 30 // 昆虫飼育室
- 31 教育学部倉庫
- 32 弓道場
- 33 体育系サークル合宿研修所
- 34 大学院連合農学研究科棟
- 35 馬術部馬房
- 36 郡元南食堂

交通機関利用略図



| | |
|----------|--------------|
| 本部 | 工学部 |
| 法学部 | 農学部 |
| 文学部 | 大学院連合農学研究科 |
| 教育学部 | 附属図書館 |
| 附属小学校 | 保健管理センター |
| " 中学校 | 地域共同研究センター |
| " 幼稚園 | 総合情報処理センター |
| 附属教育実践研究 | 遺伝子実験施設 |
| 指導センター | 多島園研究センター |
| 理学部 | アイソトープ総合センター |
| | 留学生センター |

| 学部等 | 交通機関 |
|--|----------------------------|
| 本部・農学部・大学院連合農学研究科・保健管理センター・遺伝子実験施設・アイソトープ総合センター | 9・11・11-2・20番線(鴨池港行) 農学部前 |
| 法文・教育・教育学部附属教育実践研究指導センター・理・工学部・附属図書館・地域共同研究センター・総合情報処理センター・多島園研究センター | 9・11・11-2・20番線(鴨池港行) 法文学部前 |
| 附属小学校・中学校・幼稚園 | 9番線(鴨池港行) - 附属小学校前 |
| 附属養護学校 | 8番線(交通局北営業所前行) 玉江橋 |
| | 11・11-2番線(西高校前行) 玉江小前 |
| | 1・5番線(交通局北営業所前行) 玉江小前 |
| | 24番線(緑ヶ丘団地行) |
| 水産学部 | 11・11-2番線(鴨池港行) |
| | 15番線(紫原行) 体育館前 |
| | 17番線(広木農協前行) |
| | 18番線(桜ヶ丘南行) |
| | 12・31・32番線(三和町行) - 水産学部前 |
| 医学部・附属病院 | 18(桜ヶ丘南行) 大学病院前 |
| 歯学部・附属病院 | 大学病院前 |
| 医療技術短期大学部 | 歯学部病院前 |
| 学生寮 | 私営バス 鹿児島交通線 大学病院前 |
| | 市営バス 25番線(唐湊住宅行) 唐湊 |



所在地一覽

| | | | |
|---------------------------------|-----------|--------------------|------------------------------|
| 本部 (事務局・学生部) | 〒890-8580 | 鹿児島市郡元一丁目21番24号 | ☎(285)7111(大代表) 時間外(285)7188 |
| (企画室(共通教育)) | 〒890-0065 | 〃 郡元一丁目21番30号 | ☎(285)7111(大代表) 時間外(285)8834 |
| 法文学部 | 〒890-0065 | 〃 郡元一丁目21番30号 | ☎(285)7111(大代表) 時間外(285)7508 |
| 教育学部 | 〒890-0065 | 〃 郡元一丁目20番6号 | ☎(285)7111(大代表) 時間外(285)7729 |
| 附属小学校 | 〒890-0065 | 〃 郡元一丁目20番15号 | ☎(285)7111(大代表) |
| 附属中学校 | 〒890-0065 | 〃 郡元一丁目20番35号 | ☎(285)7111(大代表) |
| 附属養護学校 | 〒890-0005 | 〃 下伊敷一丁目10番1号 | ☎(224)6257・(224)0206 |
| 附属幼稚園 | 〒890-0065 | 〃 郡元一丁目20番15号 | ☎(285)7111(大代表) |
| 附属教育実践研究指導センター | 〒890-0065 | 〃 郡元一丁目20番6号 | ☎(285)7111(大代表) |
| 理学部 | 〒890-0065 | 〃 郡元一丁目21番35号 | ☎(285)7111(大代表) |
| 附属南西島弧地震火山観測所 | 〒892-0871 | 〃 吉野町10861 | ☎(244)7411 |
| 医学部 | 〒890-8520 | 〃 桜ヶ丘八丁目35番1号 | ☎(275)5111(大代表) |
| 附属腫瘍研究施設 | 〒890-8520 | 〃 桜ヶ丘八丁目35番1号 | ☎(275)5111(大代表) |
| 附属動物実験施設 | 〒890-8520 | 〃 桜ヶ丘八丁目35番1号 | ☎(275)5111(大代表) |
| 附属難治性ウイルス疾患研究センター | 〒890-8520 | 〃 桜ヶ丘八丁目35番1号 | ☎(275)5111(大代表) |
| 附属病院 | 〒890-8520 | 〃 桜ヶ丘八丁目35番1号 | ☎(275)5111(大代表) |
| リハビリテーション科 (霧島リハビリテーションセンター) | 〒899-6603 | 始良郡牧園町高千穂3930-7 | ☎0995(78)2457・2538(大代表・時間外) |
| 歯学部 | 〒890-8544 | 鹿児島市桜ヶ丘八丁目35番1号 | ☎(275)5111(大代表) |
| 附属病院 | 〒890-8544 | 〃 桜ヶ丘八丁目35番1号 | ☎(275)5111(大代表) |
| 工学部 | 〒890-0065 | 〃 郡元一丁目21番40号 | ☎(285)7111(大代表) 時間外(285)8227 |
| 農学部 | 〒890-0065 | 〃 郡元一丁目21番24号 | ☎(285)7111(大代表) 時間外(285)8518 |
| 附属農場 | 〒890-0065 | 〃 郡元一丁目21番24号 | ☎(285)7111(大代表) |
| 唐湊果樹園 | 〒890-0081 | 〃 唐湊三丁目32番1号 | ☎(254)1042 |
| 指宿植物試験場 | 〒891-0402 | 指宿市十町1291番地 | ☎0993(22)2848 |
| 入来牧場 | 〒895-1402 | 薩摩郡入来町浦之名字大谷4018-3 | ☎0996(44)2204 |
| 附属演習林 | 〒890-0065 | 鹿児島市郡元一丁目21番24号 | ☎(285)7111(大代表) |
| 高隈演習林 | 〒891-2101 | 垂水市海潟3237番地 | ☎0994(32)6329 |
| 佐多演習林 | 〒893-2604 | 肝付郡佐多町馬籠349 | ☎09942(7)3002 |
| 附属家畜病院 | 〒890-0065 | 鹿児島市郡元一丁目21番24号 | ☎(285)7111(大代表) |
| 水産学部 | 〒890-0056 | 〃 下荒田四丁目50番20号 | ☎(286)4111(大代表) |
| 附属海洋資源環境教育研究センター | 〒890-0056 | 〃 下荒田四丁目50番20号 | ☎(286)4111(大代表) |
| 附属海洋資源環境教育研究センター 東町ステーション | 〒899-1403 | 出水郡東町諸浦字鈴潟1620-3 | ☎0996(64)5013 |
| 大学院連合農学研究科 | 〒890-0065 | 鹿児島市郡元一丁目21番24号 | ☎(285)7111(大代表) |
| 附属図書館 | 〒890-0065 | 〃 郡元一丁目21番35号 | ☎(285)7415 |
| 桜ヶ丘分館 | 〒890-0075 | 〃 桜ヶ丘八丁目35番1号 | ☎(275)5201 |
| 水産学部分館 | 〒890-0056 | 〃 下荒田四丁目50番20号 | ☎(286)4051 |
| 保健管理センター | 〒890-8580 | 〃 郡元一丁目21番24号 | ☎(285)7111(大代表) |
| 地域共同研究センター | 〒890-0065 | 〃 郡元一丁目21番40号 | ☎(285)8491 |
| 総合情報処理センター | 〒890-0065 | 〃 郡元一丁目21番35号 | ☎(285)7474 |
| 遺伝子実験施設 | 〒890-0065 | 〃 郡元一丁目21番24号 | ☎(285)7111(大代表) |
| 多島圏研究センター | 〒890-8580 | 〃 郡元一丁目21番24号 | ☎(285)7394 |
| アイソトープ総合センター | 〒890-0065 | 〃 郡元一丁目21番24号 | ☎(285)7111(大代表) |
| 留学生センター | 〒890-0065 | 〃 郡元一丁目21番24号 | ☎(285)7111(大代表) |
| 稲盛会館 | 〒890-0065 | 〃 郡元一丁目21番40号 | ☎(285)7111(大代表) |
| 大学会館 | 〒890-0065 | 〃 郡元一丁目21番24号 | ☎(285)7324 |
| 学生寮 | 〒890-0081 | 〃 唐湊三丁目3番1号 | ☎(251)3238・(254)9098 |
| 国際交流会館(1号館) | 〒890-0056 | 〃 下荒田四丁目50番20号 | ☎(285)7325 |
| 〃(2号館) | 〒890-0056 | 〃 下荒田四丁目50番20号 | ☎(285)7325 |
| 職員会館(天心荘) | 〒890-0082 | 〃 紫原三丁目20番19号 | ☎(252)0577 |
| 外国人研究員宿泊施設 | 〒890-0082 | 〃 紫原三丁目20番19号 | |
| 医療技術短期大学部 | 〒890-0075 | 〃 桜ヶ丘八丁目35番1号 | ☎(275)5111(大代表) |

キャンパスの全景

- 郡元キャンパス



(平成11年 5月撮影)

- 桜ヶ丘キャンパス



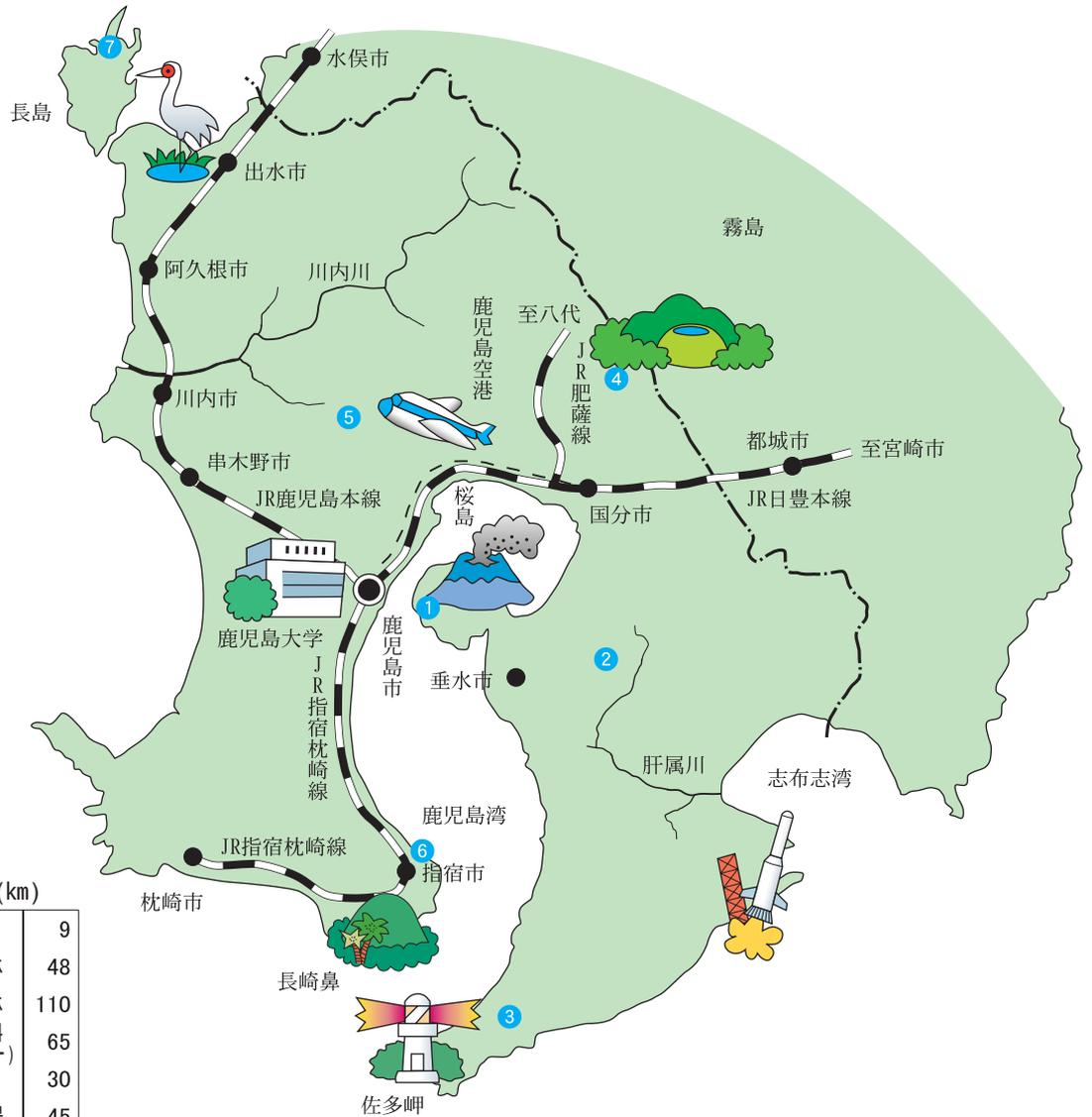
(平成11年 5月撮影)

- 下荒田キャンパス



(平成 7年 5月撮影)

鹿児島大学位置図



●鹿児島大学からの距離(km)

| | | |
|---|--|-----|
| 1 | 農学部桜島溶岩実験場 | 9 |
| 2 | 農学部附属演習林高隈演習林 | 48 |
| 3 | 農学部附属演習林佐多演習林 | 110 |
| 4 | 医学部附属病院リハビリテーション科 (霧島リハビリテーションセンター) | 65 |
| 5 | 農学部附属農場入来牧場 | 30 |
| 6 | 農学部附属農場指宿植物試験場 | 45 |
| 7 | 水産学部附属海洋資源環境教育 研究センター東町ステーション | 117 |

鹿児島大学学章



(創立50周年を記念して制定)

鹿児島大学のアルファベットの頭文字「k」をデザインしたものである。

今、まさに飛び立とうとしている姿を【鳳】の形にデザインし、歴史と伝統に輝く鹿児島大学のキャンパスを巣立つ卒業生が世界の舞台を翔よつとしている姿をシンボル化したものである。

編集・発行 鹿児島大学庶務部庶務課

〒890-8580 鹿児島市都元一丁目21番24号

代表電話 099(285)7111

F A X 099(285)7034

発行日 平成12年6月